

雖吐瀉物ニ汚染スルヲ以テ亦病毒汚染物ト同視スヘシ

第四十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第四十八條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルモ亦此法ニ從フヘシ

第四十九條 看護人及ヒ患者死體運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル者ノ他人ト交通スルモハ必ス沐浴更衣スヘシ

第五十條 病家ニ於テ止ムヲ得サル事故アリテ看護人其他患者ニ親接セル者ノ他出スルモハ必ス其身體ヲ洗淨シテ更衣スヘシ

第五十一條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セザル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ消毒法ヲ行フヲ要セザレモ其家ヲ出ルニ臨テ盥漱スルヲ良トス

但シ誤テ吐瀉物ノ爲メニ其衣服等ヲ汚シタルモ稀薄石炭酸水(第二)ヲ噴注シ或ハ沸湯ヲ以テ之ヲ洗ヒ然ル後第六十二條六十三條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第五十二條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成タケ速ニ棺内ニ欵ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ヲ用テ瀧腸シ然ル後綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヲ得ハ最良トス

第五十三條 西洋形船舶航海中ニ死者アルハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成タケ前條ノ瀧腸ヲ行ヒ假ニ棺内ニ欵ム通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計

ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ

但陸地ニ着スル上ハ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第五十四條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ火葬セムヘシ火葬場ナキ地方ハ人家ニ離レタル所ニシテ地質鬆疎ナラサルノ地ヲ擇ヒ簡易ノ火葬場ヲ設ケテ之ヲ燒クヘシ

第五十五條 吐瀉物ハ之ヲ便器漱盤等ニ承ケテ之ト同量ノ濃厚石炭酸水(第一)石炭酸若シ缺乏ノ時則硫磺酸鐵合劑亞硫酸溶液生石灰等ヲ用テ之ヲ消毒スヘシ其屋外ニ持出ス手續ハ第二十二條ニ依ルヘシ

第五十六條 避病院及ヒ各病家ヨリ運搬シタル吐瀉物汚穢物ヲ燒却スルニハ其地方ニテ定メ置キタル地質鬆疎ナラサル所ニ適宜ノ穴ヲ掘リ厚シ灰或ハ石灰ヲ穴底ニ敷キ乾キタル葉、匏屑、落葉、枯草ノ類ニ石炭油ヲ澆キテ其上ニ置キ之ニ吐瀉物ヲ投シ再ヒ同前ノ燃料ヲ覆ヒテ火ヲ點ス

ヘシ火勢滅スルモ更ニ油ヲ注キテ屢々攪挑シ全ク燒盡スルヲ期スヘシ且ツ其汚汁ノ地中ニ滲透セサル様注意スルヲ要ス

但燃料及ヒ裝置等ハ其地ノ便宜ニ隨フヘシ

第五十七條 患者ノ入りタル厠間ノ糞汁ハ法ノ如ク燒却スヘキモ若シ大量ニシテ燒却シ難キモノハ亞硫酸溶液(第十)三分一石炭酸末(第四)五分一若シ其缺乏ニ際シテハ生石灰(第三)ヲ投シテ

汲取リ一定ノ所ニ埋却シ其周圍ニハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注入スヘシ

第五十八條 吐瀉物ノ水分多クシテ燒却シ得サルモ之ヲ埋却スルニハ多量ノ濃厚石炭酸水(第一)若シハ亞硫酸溶液(第十)ヲ澆キ一定ノ場所ニ於テ深ク埋却スヘシ

但吐瀉物ノ埋却場ハ豫メ井泉河流及ヒ人家道路等ニ接近セザル地ヲ擇定スヘシ

第五十九條 吐瀉物汚穢物ヲ運搬スルニハ其地方ニ於テ豫メ取扱人夫ノ手續ヲ定メ流行ノ間ハ毎日二三回病家ノ吐瀉物汚穢物ヲ取集メ燒却若シハ埋却セムヘシ尤モ其運器ハ極テ注意シ臭氣

ノ洩レサル様只臭氣ヲ恐ルハニアラズ其毒蒸發相當ノ器ヲ用ヒ且ツ其汚汁多量ニシテ蕩溢ノ恐
アルハハ鋸屑、落葉、枯草等ヲ入レテ之ヲ防クヘシ

但運器ノ木製ナルモノハ流行終熄ノ後盡ク燒却シ其金屬製及ヒ陶製ノモノハ稀薄石炭酸水
(第二)若クハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗淨スヘシ

第六十條 食料ニ供スヘキ物品ノ現ニ病毒ニ汚染シタルモノハ勿論病毒傳染ノ嫌ヒアルモノハ
都テ之ヲ燒却スヘシ

但現ニ病毒ニ汚染セサルモ其汚染ノ疑ヒアルモノハ「サリマル」酸溶液(三百倍ノ水ニ)ヲ以テ
之ヲ洗淨スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第六十一條 衣服、臥具、蚊帳、疊、蓆等ノ甚シク吐瀉物ニ汚染シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ

但船中積荷ノ吐瀉物ニ汚レタルモノモ亦之ニ倣フヘシ

第六十二條 衣服、臥具、蚊帳等吐瀉物ニ汚穢スル少ナクモテ洗滌ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ
稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置クヲ二十四時間ニテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水

ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等ノ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ

第六十三條 衣服、臥具、蚊帳等ノ少シク吐瀉物ニ汚染シ洗滌ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリ亞硫
酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ

曝スヘシ

第六十四條 死體ニ著セシ衣服ハ其消毒法ヲ行フ第六十一條第六十二條及ヒ第六十三條ニ同シ

第六十五條 避病院ニ用ヒタル蚊帳ハ其病室ニ在ルコト久キヲ以テ吐瀉物ニ汚染セサルモノト雖モ
都テ之ヲ煮沸シ或ハ熱氣消毒法ヲ施スヘシ

第六十六條 吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人、等ハ患者及ヒ汚穢物ニ親接ス
ルコト久シク若クハ屢次ナルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施ス第六十二條第六十三條ニ同シ

但本文ニ掲グル所ノ者日々衣服ヲ更換セハ沸湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ可トス

第六十七條 看護人及ヒ患者死體運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル者ノ衣服手道具ハ直チニ
病毒ニ汚染セサルモ稍々病毒傳染ノ疑ヒアルヲ以テ第六十三條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第六十八條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ懸ケ戸棚等ヲ開放シ
室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル

後窓戸ヲ開キ吐瀉物ニ汚染ノ嫌ヒアル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ之ヲ拭淨シ其他器具
ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣

フヘシ

但金銀器書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノ
ハ初メニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第六十九條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆
多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕藉シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルハハ滿室ノ乘客

積荷手荷物等モ皆病毒ニ汚染シタル者ト看做シ乘客手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷
ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品物ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薰スル
ノ後ニアラサレハ陸揚スルヲ許サス

第七十條 日本形小船ハ前條ノ方法ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ遍ク船身ヲ洗淨スヘシ
但海水モ亦消毒ノ効アルモノトス

第七十一條 避病院其他便宜ニヨリ他ノ家屋ヲ借用セシモノハ其病室ニ供セシ部分竝ニ厠房ニ亞硫酸瓦斯 (第九) ヲ薫シ後稀薄石炭酸水 (第二) 或ハ亞硫酸溶液 (第十) ヲ注キ石鹼水ヲ用ヒテ洗淨ス

第七十二條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第七十三條 臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカヲサレモノハ流行終ル後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前汚穢タル板敷、板壁及柱等ハ濃厚石炭酸水 (第一) 又ハ亞硫酸溶液 (第十) ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第七十四條 吐瀉物ヲ承ケタル漱盤便器等ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水 (第二) 或ハ亞硫酸溶液 (第十) ヲ以テ洗淨スヘシ其吐瀉物ニ汚染シタル紙屑、手拭其他之ニ類スルモノハ悉皆取集メ第二十二條ニ載セタル壺或ハ桶ニ投シ濃厚石炭酸水 (第一) 或ハ亞硫酸溶液 (第十) ヲ注キ吐瀉物ト共ニ之ヲ運搬セシムヘシ

第七十五條 患者必要ノ手道具ヲ携ヘ避病院ニ入ル者ハ出院ノ時必ス亞硫酸瓦斯 (第九) ヲ薫蒸法ヲ行ヒ之ヲ交付スヘシ

第七十六條 患者及ヒ死體若シハ病毒ニ觸レタル物品ヲ運ロタル舟車駕及ヒ運搬器等ハ稀薄石炭酸水 (第二) ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第七十七條 病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水 (第二) 或ハ亞硫酸溶液 (第十) ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨シ乾カスヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シハ之ヲ濕ステ置トス 亞硫酸瓦斯 (第九) 或ハ石炭酸蒸氣 (第三) ヲ以テ一時間薫蒸スヘシ

第七十八條 書籍、新聞紙ノ類病室ニアリタルモノハ之ヲ繕展シ石炭酸蒸氣 (第三) 若クハ亞硫酸瓦斯 (第九) ヲ薫蒸スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第七十九條 醫術器械及ヒ木製、金屬製、陶製、漆製等ノ諸器ハ總テ稀薄石炭酸水 (第二) ヲ以テ洗フヘシ

第六 厠園溝渠等消毒法

第八十條 患者ノ入りタル厠園及ヒ嘔吐シタル地ニハ充分亞硫酸溶液 (第十) 或ハ硫酸鐵合劑 (第五) ヲ注キ其厠園ノ糞汁ハ速ニ悉皆之ヲ汲取リ相當ノ消毒ヲ行ヒ終ルノ間ハ他人ノ入ルヲ禁シ其嘔吐シタル地ハ速ニ之ヲ掃除シ其土ヲ更換スヘシ且ツ其糞尿及ヒ嘔吐ノ穢土ハ人家遠隔ノ地ニ於テ燒却若クハ埋却スヘシ

第八十一條 糞壺及ヒ桶ノ破壞シテ病毒滲漏ノ疑ハアルモノハ速ニ之ヲ掘除ケ其周圍竝ニ底面ノ土モ亦深ク掘取リ濃厚石炭酸水 (第一) 或ハ亞硫酸溶液 (第十) ヲ十分ニ灌注シテ人家遠隔ノ地ニ埋却シ其跡ニモ同様ノ消毒藥ヲ注キ更ニ新土ヲ填ムヘシ

但其消毒藥ノ量ハ其壺中糞汁ノ多少ニ因リ斟酌スヘシ大抵糞汁五分ノ一乃至三分ノ一タルヘシ嘔吐物モ亦之ニ準ス

第八十二條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルコトアルハ十分ニ亞硫酸溶液 (第十) 或ハ硫酸鐵合劑 (第六) ヲ注キ其淤泥ノ撈ヘ得ヘキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ或ハ多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ

但本條ノ如キ場處ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルトキハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムヘシ故ニ預メ戒諭シテ誤テ之レニ投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカラシムルヲ要ス

腸窒扶私

腸窒扶私 英名タイハ從來神經熱、稽留熱、腐熱、傷寒、溫疫等ト稱スルモノ多ク之ニ屬ス而シテ此病ハ時ヲ撰ハス不斷散在性トナリ或ハ地方性トナリ或ハ流行性トナリテ發スト雖モ夏月旱魃後秋涼ノ候ニ於テ最モ多ク流行スルモノナリ
此病ノ流行ハ空氣ノ不潔、飲料水ノ汚濁、食物ノ不潔等之カ因トナルモノニシテ其病毒ハ特ニ患者ノ糞尿ニ由リテ傳播スル者ナリ然レモ其毒發疹窒扶私、天然痘等ノ如ク揮發性ノモノニ非サルヲ以テ豫防ノ方法モ亦其趣ヲ異ニシ專ラ其糞尿ニ注意スルヲ以テ緊要ノ目的ト爲スヘシ

第一項 清潔法

第一條 腸窒扶私ノ病毒ハ汚穢ノ地ニ萌動シテ飲料水ニ混シ其毒ヲ傳播セシムルノ例少カラス蓋シ是等ノ害ハ清潔法ヲ怠リ或ハ排泄物ヲ漫リニ放棄シ或ハ糞壺若クハ桶ニ破隙アル等ノ疎漏ヨリ生スルモノニシテ周圍ト飲料水トノ注意ハ最モ肝要ナリ故ニ周圍、芥溜、溝渠、下水等ノ掃除ヲ忽ニスヘカラス
但一處ノ水ヲ飲ム者一時ニ此病ニ罹ルル者多ク數ナルルハ直チニ其水ヲ試驗シ不潔ナレハ其飲用ヲ禁スヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ不潔ノ飲料水若クハ食物等ヨリ來ルモノナルカ故ニ消化シ易キ物ヲ食シ清潔ナル水ヲ飲ムヘシ若シ善良ノ水ヲ得難キトハ必ス之ヲ濾過煮沸シテ用フヘシ其他胃寒、疲勞等ヲ戒ムヘシ

第三項 隔離法

第三條 醫師ノ腸窒扶私ト診斷シタルトハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 患者ハ成タケ其室ヲ異ニシ他人ト交通ヲ絶チ看護人ハ年齡四十歳以上ノ者若クハ一回此病ニ罹リシ者ヲ撰フヘシ少壯ノ者ヲ用フヘカラス

但航海船中ニ於テ發病者アルトモ本條ニ從ヒ處置スヘシ

第五條 一家ニ數人此病ニ罹ル者アルトハ相當ノ看護人ヲ留メ其他ノモノハ他家ニ退避セシムヘシ

第六條 流行盛ナルニ際シ既ニ避病院ヲ設ケルニ至ラハ狹隘不潔ノ地ニ雜居シ隔離行届キ難キモノハ入院セシムヘシ
但避病院ノ位置狹狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

第四項 消毒法

第七條 腸窒扶私患者ノ瀉下物及ヒ之ニ汚染シタル衣服、器具等竝ニ其病室、周圍、便器等ハ盡シ消毒傳播ノ恐アルヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ消毒スヘシ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第八條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又久シク此患者ニ親接セル看護人ノ他人ト交通スルトハ沐浴換衣スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第九條 死體ハ速ニ棺内ニ斂メシムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸セル綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヲ得ハ最良トス

第十條 糞尿ハ之ヲ便器ニ承ケ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ速ニ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ之ヲ埋却スヘシ

但埋却ノ地ハ井泉河流ノ近傍ヲ避ケヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十一條 衣服、臥具ノ糞尿ニ汚染シタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗淨シ或ハ之ヲ煮沸シテ後石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十二條 患者及ヒ死體ヲ置キタル家屋船舶及ヒ避病院ノ病室屍室ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ或ハ石炭酸水(第二)ヲ以テ拭淨スヘシ

但室内ハ常ニ注意シテ空氣ヲ流通スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第十三條 什具運搬器ハ直チニ糞尿ニ汚穢スルニ非サレハ消毒ヲ要セサレ且其汚穢セルモノハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗淨スヘシ或ハ其品種ニヨリ熱湯ヲ注キテ後石鹼水ヲ以テ洗フヘシ

但木製ノ便器ハ其用ヲ終ルノ後之ヲ燒却スヘシ

第六 厠園溝渠等消毒法

第十四條 若シ誤テ患者ノ糞尿ヲ厠園、溝渠ニ混入セシトハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キテ之ヲ汲取リ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ溝渠ハ「コロール」石灰ヲ撒布シ水ヲ以テ疏通セシムヘシ

赤痢

赤痢ハ一種ノ傳染病ニシテ其病毒地中ニ萌動シ人體ヲ侵スルハ必ス大腸ニ着キテ下利ヲ發スルモ

ノナリ然シテ此患者ノ瀉下スル所ノ糞尿ハ其病毒ヲ含有シテ水中地中或ハ氣中ニ散漫シ因テ廣ク他人ニ傳染スルニ至ルモノトス

此病毒ノ發生ヲ助クルハ濕熱ト濕濡トニ因ルモノナレハ熱帶地方ニ於テハ殆ント周歲絶ルコトナク且ツ多シハ惡性ナリ又暖帶地方ニ於テハ季夏初秋ノ候ニ行ハル、ヲ以テ常トス又土地ノ景況ニ從テ一地方ニ限リ流行スルコトアリ或ハ惡性ニシテ廣ク流行スルコトアリ此ノ如キ時ニ臨テハ務テ豫防法ニ注意シ其宜キヲ得ハ其性ノモノハ之ヲ撲滅スヘク惡性ノモノハ之ヲシテ其性ニ至ラシムルヲ得ヘシ故ニ流行ニ際シテ豫防ノ法ヲ忽ニスヘカラス

第一項 清潔法

第一條 此病毒ハ汚濁ノ土地ニ萌動シテ氣中或ハ水中ニ混シ終ニ人體ヲ侵襲スルモノナルカ故ニ厠園、溝渠、芥溜、下水及ヒ魚市、屠場等ノ不潔ナル場所ハ勿論殊ニ監獄、製造所等ハ最モ掃除ヲ嚴ニスヘシ

但一處ノ水ヲ飲ム者一時ニ此病ニ罹ルコト多人數ナルトキハ直チニ其水ヲ試驗シ不其水ナレハ其飲用ヲ禁スヘシ且ツ清潔法ノ細目ハ能ク虎列刺ノ部ヲ參考シテ之ヲ斟酌スヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ老少ノ別ナク皆之ニ感スルノ素因アルカ如シト雖モ就中一回之ヲ患ヘシ者及ヒ不潔ノ地處ニ住居スル者不其水ヲ飲用スル者及ヒ露臥、夜行、過度ノ勞力等都テ不攝生ノ者ハ之ニ感シ易シトス又流行ノ際ニ當テハ下痢秘結モ亦此病ノ誘因トナル故ニ宜ク之ニ注意シテ攝生ノ法ヲ守ルヘシ殊ニ此病ニ罹リシ者快復ニ向ハントスルハ更ニ飲食ノ攝生ヲ嚴ニスヘシ些少ノ不消化物ヲ食フモ亦此病ノ再發ヲ促スノ恐アレハナリ

第三項 隔離法

第三條 此病毒ハ專ラ其瀉下物ニ在ルヲ以テ之ニ汚染セル衣服便器、醫術器械等ハ勿論其他ノモ
ノモ亦皆傳播ノ媒介トナル故ニ患者ヲ隔離スルヲ以テ豫防ノ第一要法トス其惡性ノモノハ最モ
此注意ヲ忽ニスヘカラス

第四條 醫師ノ赤痢ト診斷シタル時ハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ
但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去
ルヘシ

第五條 患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成タケ之ニ接近スヘカラス又老幼等ハ速ニ他家ニ避退
セシムヘシ

第六條 若シ一家ニ數人此病ニ罹ル者アルハ看護人ヲ留メ其他ノモノハ他家ニ避退セシムヘシ
第七條 患者ハ必ス他人ト同室、便器等ヲ共用セシムヘカラス其瀉下スル所ノ糞尿ハ成タケ之ヲ
便器ニ承ケ速ニ消毒法ヲ行ヒ之ヲ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ燒却スヘシ

但便器ハ成タケ金屬製或ハ陶製等ニシテ蓋アルモノヲ良トス

第八條 患者治癒若クハ死亡ノ後ト雖モ病室ニ消毒法ヲ行フニアラサレハ其中ニ起臥スヘカラス
第九條 航海船中ニ患者アルハ看護人ヲ定メ便器ヲ以テ其瀉下物ヲ承ケ毎回必ス海中ニ投棄ス
ヘシ

但港灣及ヒ河湖等ニ於テハ瀉下物ヲ投棄スヘカラス最寄陸地ニ於テ之ヲ燒却スヘシ

第十條 避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之
ヲ斟酌スヘシ

第十一條 狹隘不潔ノ住居若クハ製造所、會社、學校、旅店等ニ於テ發病スル者ハ成タケ避病院ニ
送致スヘシ

第十二條 避病院看護人ノ分配、來訪人ノ處置等ハ虎列刺ノ部第四十一條ヨリ第四十四條迄ニ照
依シテ之ヲ斟酌スヘシ

第十三條 普通病院アル地方ニ於テハ院內ヲ區隔シ避病室トナシ患者ヲ入ルヘシ又人家稀疎ノ村
落ニ於テハ相當ノ空室ヲ用フルモ可ナリ

第四項 消毒法

第十四條 患者ノ瀉下物及ヒ之ニ汚染セル衣服、臥具等竝ニ病室、廁室、便器等ハ盡ク病毒傳播ノ
恐アルヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ消毒スヘシ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第十五條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全
身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施セシ衣服ヲ着スヘシ瀉下物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護
人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルハ亦此法ニ從フヘシ

第十六條 看護人及ヒ患者死體運搬人ノ他人ト交通スルハ必ス沐浴更衣スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第十七條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成タケ
速ニ棺内ニ歛ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ヲ用テ澀腸シ然ル後綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヲ得ハ
最良トス

但此患者ノ死體ハ最モ腐敗シ易キヲ以テ速ニ棺内ニ歛メ且ツ成タケ速ニ之ヲ火葬若クハ埋葬
セシムヘシ

第十八條 便器ニ承ケタル瀉下物ハ濃厚石炭酸水(第一)或ハ硫酸鐵合劑(第五)硫酸硫鐵合劑(第六)
亞硫酸溶液(第七)等ヲ混和シ屋外ニ持出シ壺或ハ桶ニ入レテ密蓋シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ燒

却スヘシ其燒却法ハ虎列刺ノ部第五十六條ヲ參照スヘシ

第十九條 甚シク瀉下物ニ汚染シタル紙及ヒ綿布等ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第二十條 衣服、臥具、蚊帳、蓆等ノ甚シク瀉下物ニ汚染セタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其汚穢スル少ナクシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ澀キ浸シ置クヲ二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ若シ石炭酸等ノ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ

第二十一條 其少シ瀉下物ニ汚染シ洗濯スヘカラサルモノハ其品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第二十二條 死體ニ着セシ衣服ノ消毒法ハ前二條ニヨリ之ヲ施スヘシ

第二十三條 瀉下物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ハ患者及ヒ汚穢物ニ久シク觸接セルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スヲ第二十條第二十一條ニ依ルヘシ

但日々衣服ヲ更換スル者ハ沸湯ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スルヲ以テ足レリトス

第二十四條 看護人及ヒ患者死體運搬人ノ衣服、手道具等直チニ病室ニ汚染セサルモ稍、浸染ノ疑アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸シ日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第二十五條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ邊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戶ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戶ヲ開キ病室附着ノ窓アル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣

フヘシ

但亞硫酸ノ爲メ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ選用スヘシ輕症痲病ノ如キハ必スシモ本條ノ處置ヲ要セス醋水若クハ「コロール」水ニテ室内ヲ拭淨スルヲ以テ足レリトス

第二十六條 患者アリタル船室ノ消毒法モ亦前條ニ同シ

第二十七條 普通病院ニシテ區隔セシ病室及ヒ一時假用セシ家屋等ノ消毒法モ亦前條ニ同シ但病室ハ數多ノ患者交々此内ニ入ルヲ以テ惡性ノ痲病ナラサルモ尙ホ前條ノ消毒法ヲ用フヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第二十八條 便器ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水(第二)亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ洗滌スヘシ

第二十九條 患者及ヒ死體若クハ瀉下物ニ汚染シタル物品ヲ運ヒタル諸器ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ澀注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第三十條 病室内ニ用ヒタル什具及ヒ醫用器械等ハ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ然ル後沸湯ニテ洗淨スヘシ

第六 廁圍溝渠等消毒法

第三十一條 患者ノ入りタル廁圍ハ他人ノ入ルヲ禁シ亞硫酸溶液(第十)或ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キ其瀉下物ハ速ニ之ヲ汲取り人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ而シテ其糞壺ニハ復タ同様ノ消毒法ヲ行フヘシ

第三十二條 糞壺及ヒ桶ノ破壞シテ病毒滲漏ノ疑アルモノハ之ヲ掘除ク其周圍ノ土ヲ掘取り濃厚石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ充分ニ澀注シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

但消毒藥ノ量ハ其壺中質量五分一乃至三分一タルヘシ
 第二十三條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルコトアルハ充分ニ亞硫酸溶液(第十)或ハ硫酸
 酸硫酸鐵合劑(第六)ヲ注キ其淤沈ノ撈ヘ得ヘキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却
 スヘシ或ハ多量ノ水ヲ澆キテ疏通セシムヘシ
 但本條ノ如キ場處ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシ
 ムヘシ故ニ豫メ戒諭シテ誤テ之ニ投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカラシムルヲ要ス

實布埤利亞

實布埤利亞ハ一種ノ猛烈ナル傳染病ニシテ其毒ハ患者ノ痰唾、涕汁等ニ含トリ又呼出スル所ノ空
 氣モ其毒ヲ包含スルヲ以テ之ニ觸ル、時ハ老少ニ論ナク皆之ニ感スルモノナリ而シテ幼稚ノ者ハ
 之ニ罹ルコト最モ多ク且ツ危險ナリトス抑此病毒ハ其發生時季ヲ擇ハス又風土ニ關涉スルコトナ
 ク不斷散在スルコトアリ又一時ニ廣ク流行スルコトアリ此症ハ必ス咽喉ニ發スルモノニシテ之カ爲メ
 ニ其部ノ壞爛ヲ致シ甚キモノハ須臾ニシテ斃ル故ニ從來喉風、喉痺、馬痺風、經喉風、咽氣ト唱フ
 ルモノ、中亦往々之レ有リ此病ハ患者ニ觸接セサルモ尙ホ感染ノ恐アルモノニシテ且ツ其毒久ク
 消滅セサルカ故ニ隔離消毒ノ方法ヲ忽ニスヘカラス

第一項 清潔法

第一條 此病流行ノ際ハ務テ一般清潔法ニ注意シ既ニ發病スルハ其室内ノ掃除ヲ怠ルヘカラス
 家屋、衣服等清潔ニシテ且ツ隔離法充分ナルハ廣ク流行ニ至ラスシテ消熄スルヲ得ヘシ

第二項 衛生法

第二條 此病ハ殊ニ咽喉ヲ侵スモノニシテ既ニ些少ノ咽喉炎アルモノハ自カラ侵襲ヲ被リ易シ故

ニ專ラ口内、喉頭、氣管等ノ炎症ヲ誘發スヘキ事件ヲ戒メ常ニ含漱スルヲ良トス

但其誘發スヘキ事件トハ頸圍ヲ温保セシモノ驟カニ寒冷ニ冒觸シ或ハ苛烈ノ飲食料ヲ用ヒ或
 ハ高談放歌シ或ハ幼稚ヲシテ頻ニ號泣セシメ及ヒ小學校ニ於テ妄ニ高聲ヲ發シ讀書唱歌セシ
 ムル等ニシテ皆宜ク之ヲ戒ムヘシ

第三項 隔離法

第三條 醫師ノ實布埤利亞ト診斷スルハ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ
 但患者治癒或ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去
 ルヘシ

第四條 此病ハ患者ニ接觸シ或ハ患者ノ痰唾ニ汚染セル物品若クハ室内ノ空氣ヨリ傳染スルヲ以
 テ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ看護人ノ外ハ漫ニ接近セシム可ラス殊ニ小兒ヲ遠サクヘシ

但室内ノ空氣ハ常ニ新鮮ナラシムルヲ要ス

第五條 病兒ハ健兒ト共ニ遊戯セシムヘカラス又學校等ニ行カシムヘカラス

第六條 病室内ニハ不用ノ衣服及器具ヲ置クヘカラス

第七條 患者ノ用フル所ノ飲食器及ヒ玩具等ハ他人ト共用スヘカラス

第八條 若シ其流行ノ勢盛ニシテ避病院ヲ要スルコトアルハ普通病院ヲ區隔シ或ハ相當ノ空屋ヲ
 以テ之ニ充ル等其便宜ニ任スヘシ

第九條 避病院ヲ設ルハ別ニ清潔ナル居室ヲ設テ患者死亡シタル後之ニ移スヘシ

但居室ハ親族ノ用者ヲ入ルカ爲メ豫メ其餘地ヲ設クヘシ

第十條 避病院ニ在ル患者ノ親戚又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコト望ムルハ之ヲ許スヘシ
 但屢々交替スルハ許スヘカラス

第四項 消毒法

第十一條 此病毒ハ患者ノ痰唾及ヒ呼吸氣或ハ涕汁等皆之カ傳送物ナリ故ニ此等ノ排泄物ニ汚染シタル物ハ必ス消毒法ヲ行フヘキモノトス

第十二條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第十三條 患者治癒ノ後他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルモノモ亦此法ニ從フヘシ

第十四條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等其室ヲ出ルルハ必ス盥嗽スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第十五條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ棺内ニ歛メシムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル綿ヲ以テ口鼻ヲ栓塞スルコトヲ得ハ最良トス

但死體ハ成タケ火葬スルヲ良トス

第十六條 痰唾及ヒ涕汁等ヲ拭ヒヨル手巾及ヒ紙、綿布ノ類ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ但水分剩多ニシテ燒盡シ難キモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十七條 衣服、臥具ノ甚ク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スルヲ良トス其僅ニ穢レタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ浸シ置クコト二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ且ツ洗滌シ日光ニ曝スヘシ

シ或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸セシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十八條 此病毒ハ極テ頑強ニシテ善ク粗糙ナル物ニ附着スルカ故ニ最モ注意シテ下條ノ消毒法ヲ充分ニ行フヘシ

第十九條 患者及ヒ死體ヲ置タル病室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ疊、蓆、障等ニハ更ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他棚架及ヒ板敷等ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室、屍室及ヒ普通病院ヲ區隔セシ病室又ハ臨時假用セル家屋モ亦之ニ倣フヘシ

但亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ鹵アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ撰用スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第二十條 病室ニ用ヒタル什具飲食器及ヒ玩具等ノ甚ク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其燒却スヘカラサルモノハ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ置クモノハ之ヲ沸湯トシ亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ニテ一時間薰蒸スヘシ然ラサレハ室外ヘ出スヘカラス

第二十一條 患者ノ玩弄セシ圖書書籍ノ類ハ之ヲ播展シ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰蒸スヘシ

第二十二條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯

湯ヲ以テ洗浄スヘシ其解舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ
第二十三條 醫術器械等ノ木製及ヒ金屬製ニシテ病毒ニ接觸シタルモノ例ヘハ脛舌鏡ノ如キハ總
テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

發疹室扶私

發疹室扶私扶私ハ特異ノ揮發性傳染毒ニシテ飢饉熱、軍陣疫、囚獄熱等ノ稱アリ從來腐敗熱、神
經熱、發斑熱、溫疫、傷寒ト唱ヘシモノ、中ニモ此病アルト多シ其病タルヤ地方ヲ撰ハス氣候ニ
關セス流行スルト雖モ多クハ衆人群集大氣流通ノ不佳ナル所ニ萌動シ衣服身體ノ不潔或ハ飲食ノ
不潔不足及ヒ過度ノ勞力、露臥、夜行其他身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ誘因トシ傳染蔓延スルモノナ
リ其流行スルニ及テハ貴賤老幼ノ別ナシ其誘因アルカ或ハ隔離法ノ行届サルヨリ倍々傳染ノ勢ヲ
盛ニシ動モスレハ年ヲ亘リ消滅セサルヲアリ故ニ此病ノ豫防法ハ最モ忽ニスヘカヲササルモノト
ス

第一項 清潔法

第一條 發疹室扶私ノ病毒ハ不潔、狹隘、空氣ノ汚濁ヨリ生スルモノナレハ其發現スルニ當テ囚
獄、兵營及ヒ製造所、貧院、棄兒院其他群集雜居稠密ノ場所ハ勿論一般ノ家屋タリ日掃除ニ怠ラ
ズ務テ清潔ニシテ且ツ空氣ヲ疏通セシムヘシ最モ其身體ニ切ナル清潔法ヲ至要トシ日々沐浴シ
衣服ノ洗濯ヲ怠ルヘカラス殊ニ病毒ノ發生ヲ助クヘキ一切ノ汚穢物即チ廁圍、芥溜、溝渠等ノ掃
除ニ注意ヲ加フヘシ
第二條 避病院病室ニ於テ用フル所ノ器具ハ無色若クハ淡色ノモノヲ要スヘシ其汚染ノ見易キカ
爲メナリ自宅療養ノ者モ亦同様ノ注意ヲ要スヘシ

第二項 攝生法

第三條 此病ニ感スルノ素因ハ各人多クハ之ヲ有スト雖モ就中飢饉ノ窮民、軍陣ノ兵卒、監獄ノ囚
徒等ノ如キハ其居處及ヒ攝生ノ不潔ナルヨリ此病ニ罹ルモノ多シトス夫レ飢饉ノ時ニ當テハ攝
生ノ事皆其宜キヲ得スト雖モ其最モ甚シキハ食物ノ不足ト不潔トニアリ故ニ衛生官吏ハ務テ其
食品中成ダケ滋養分多キモノヲ撰ヒ有害ノ物ヲ指示シテ之ヲ避ケシムヘシ
第四條 兵卒ノ軍陣ニ在ルハ固ヨリ攝生ノ方ヲ講スルニ違ナカルヘシト雖モ若シ一人發病スル
ハ直チニ全軍ニ波及スルノ虞アルヲ以テ成ルタケ無用ノ露臥過勞ヲ慎ミ且ツ飲料ノ良否ニ注
意ヲ加フヘシ囚獄、懲役場ノ如キハ流行ノ際殊ニ空氣ノ流通及ヒ其食物ニ注意ヲ加ヘ工役等モ
過度ナラシメサルヲ要ス一旦病毒ノ蔓延スルニ至テハ高貴豪富ノ人ト雖モ猶其傳染ヲ免ルハ能
ハス是各人其素因アルヲ證スルニ足ル故ニ此時ニ當テハ務テ身體ノ溫度ヲ適宜ニ保持シ飲食ヲ
攝シテ過度ノ勞力ヲ爲スヘカラス且ツ夜氣、風雨等ノ感冒及ヒ身體ヲ衰弱セシムルノ諸件ヲ戒
ムヘシ

第三項 隔離法

第五條 醫師發疹室扶私ト診斷シタルハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ
但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ル
ヘシ
第六條 發疹室扶私ハ其毒揮發性ニシテ患者ノ皮膚、蒸發氣、呼吸ヨリ發スルモノナレハ直チニ患
者ニ接觸セサルモ尙ホ之ヲ感受スルヲアリ故ニ患者ノ身體ヲ以テ皆病毒ナリト看做スヘシ又患
者數名ヲ狹隘ノ一室ニ入ルハ病毒稠厚トナリ感染ノ勢益々烈シ此室内ニ入ルモノ忽チ其病害
ヲ受クルノ恐アリ故ニ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ且ツ相當ノ廣室ニ移サ、ルヘカラス

第七條 病室ハ適宜ニ窓戸ヲ開キ換氣法ニ注意シ常ニ其内ノ空氣ヲ清鮮ナラシメ看護人ノ外必ず接近セシムヘカラス

第八條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶チ又老幼等ハ成タケ速ニ他家ヘ避退セシムヘシ否ラサレハ留ニ其害ヲ受ルノミナラス之カ媒介トナリ大ニ傳播スルノ恐アレハナリ

但家人ト雖モ要用アルノ外其室内ニ入ルヘカラス若シ外人ノ要用アリテ來ルルハ戶外ニ於テ之ヲ辨スヘシ且ツ看護人ハ成タケ更換スヘカラス是レ其揮發毒ノ衣服等ニ附着シテ廣ク他人ニ傳染スレハナリ

第九條 病室内ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス殊ニ毛布ノ類ハ其病毒ヲ包含シ易キカ故ニ必要ノ外決シテ之ヲ置クヘカラス

第十條 此病ハ死體ヨリモ尙ホ其病毒ヲ發出シ以テ感染セシムルノ例少ナカラス故ニ死體ニハ速ニ消毒法ヲ行フヘシ死體ニ沐浴セシメ或ハ屍傍ニ接近スル等ノコトハ決シテ爲スヘカラス

第十一條 患者治癒死亡ノ後ハ病室ニ消毒法ヲ行ヒ數週間窓戸ヲ開放シ風氣ヲ流通スヘシ蓋シ消毒ノ後ト雖モ即チ室内ニ起臥スルルハ傳染ノ恐ナキニアラサルカ故ナリ

第十二條 船舶中ニ此病ヲ發スル者アルルハ速ニ其室ヲ異ニシ看護人ノ外交通ヲ絶ツコト尙ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ

但此病ハ動モスレハ衆人群集セル船室ニ發シ又船中飲食ノ不良不足等其素因トナルカ故ニ若シ患者アラハ速ニ之ヲ隔離シ室内ノ清潔法ニ注意スヘシ

第十三條 製造所、會社、學校、旅店等其他衆人群集ノ處ニ於テ發病セシ者アラハ成タケ速ニ之ヲ避病院ニ送ルヲ良トス若シ避病院ナク他ニ相當ノ空屋アラハ直チニ此ニ送致スヘシ然レモ其發

病セシ所ノ室廣潤ニシテ且ツ他人ト充分ニ隔離スルヲ得ハ必シモ他ニ送ルヲ要セサルヘシ
第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セズ且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ミ必ス往來繁多ノ路傍等ニ置クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲グヘシ
第十五條 避病院ノ建築ハ簡易ヲ旨トシ善美ヲ要セス是レ流行終熄ノ後燒却スルヲ良トスレハナリ

第十六條 避病院ノ病室ハ最モ潤大ナルヲ要スル故ニ患者一人ニ二坪半ト見積リ其人數ノ概計ハ虎列刺第三十四條ニ載セタル割合ニ從ヒ之ヲ設クヘシ其他醫師詰所、事務所、看護人休息所竝ニ簡易ノ蒸氣室等ヲ設クヘシ虎列刺第三十六條參照

第十七條 避病院ノ門側ニ輕易ナル風呂ヲ置キ看護人、見舞人等退出ノ時必ス之ニ浴セシムルヲ良トス又病室ハ空氣ヲ流通セシメンカ爲メ窓戸ヲ開キ冬時ハ暖爐ヲ置キ其温度ヲ適宜ニシテ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但患者退院若クハ死亡スルノ後ハ毎回其病室内ニ消毒法ヲ行フヘシ
第十八條 避病院ニハ清淨ナル屍室ヲ設ク患者若クハ死亡シタルルハ直チニ之ニ遷シ病室ニ留置クヘカラス

但其屍室ニハ親族ノ用者ヲ入ルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ其用者ハ成タケ速ニ來ルヘキ手續ヲ爲スヲ要ス此病ハ死體モ亦發毒ヲ達フスルモノナレハ必ス久ク留置クヘカラス

第十九條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ之ヲ假用シ或ハ苦葺等ノ屋舎ヲ假設スルモ可ナリ

第二十條 尋常ノ病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分

ニ隔離法消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ二人一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四八一人ヲ附シ其快復ニ赴ク者ニハ六人一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ着セシメ且ツ成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十二條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコト望ムトハ之ヲ許スヘシ但其看護人ハ多人數ナラサルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許スヘカラス

第二十三條 避病院ニ携ヘ來リシ衣服、手道具等ハ別室ニ置クヲ良トス

第二十四條 患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者來訪スルモ成タケ室内ニ入ルヲ許サ、ルヲ良トス

第二十五條 此病ハ揮發性ニシテ一時ニ衆人ヲ侵シ若シ一人發病スルハ其衣服等ニ附着セル病毒忽チ傳播シ大ニ流行ノ媒介トナルヲ以テ流行ノ際ニハ成タケ衆人群集スルノ事業ヲ差止メ且ツ社寺參拜等ノ爲メ多人數旅行スルヲ差止ルヲアルヘシ

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ患者及ヒ死者ノ身體ヨリ發シテ衣服、臥具、器具ハ勿論居室ノ疊、蓆、屏障等ニ至ルマテ盡ク附着シテ其病毒久ク潛匿スルモノナレハ病體及ヒ死體ニ近接セルモノハ都テ病毒ト同視シ消毒法ヲ行フヲ要ス

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ
第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節等ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若シハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ患者死體運搬人竝ニ

避病院ノ醫師、死體取扱人及ヒ船中ニテ患者ト同席セシ者等他人ト交通スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セシ醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者ハ成タケ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗拭スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第三十條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若シハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ歛ムヘシ

但死體ハ成タケ之ヲ火葬スルヲ良トス

第三十一條 西洋形船舶航海中ニ死者アルハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若シハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ歛メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灑注スヘシ

但陸地ニ着スルハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第三十二條 此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖モ空氣ヲ汚スノ恐アルヲ以テ成タケ速ニ之ヲ取除ク病室内ニ留置ヘカラス

第三 衣服臥具等消毒法

第三十三條 患者ノ久ク着シタル衣服、臥具ノ汚垢ニ染ミタル者、又ハ死體ニ直接シタル臥具、避病院ニテ用ヒタル臥具、蚊帳等ハ成タケ燒却スルヲ良トス其燒却ヲ俾ルヘキモノニシテ洗濯スヘキハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灑キ浸シ置クコト二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上煮沸スヘシ

第三十四條 同前ノ品種ニシテ洗濯スヘカラサルモノハ亞硫酸瓦斯(第九)石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ

蒸蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第三十五條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊簾類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸柵等ヲ開放シ室
内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戶ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後
窓戶ヲ開キ病毒附着ノ窓アル柱、板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具
ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣
フヘシ

但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アル者
ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第三十六條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆
多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕藉シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルハ滿室ノ乘
客、積荷、手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乘客、手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ
積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薰ス
ルノ後ニ非サレハ陸揚スルヲ許サス

第三十七條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗フヘシ

第三十八條 尋常家屋ヲ避病院ニ借用セシモノハ其病室トナセシ部分ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰セ
シ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ洒キ石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第三十九條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十條 避病院ハ流行ノ後成タテ燒却スルヲ良トス否ラサレハ先ク汚穢シタル板敷、板壁及ヒ

柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝シ
然ル後之ヲ取毀ツヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第四十一條 病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ濯キ然ル後石
鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ
之ヲ濕スナキトス 亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間薰蒸スヘシ

第四十二條 書籍新聞紙ノ類病室ニアリタルハ之ヲ繕展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯
(第九)ヲ薰スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十三條 醫術器械及ヒ職人手道具其他木製、金屬製、陶製、漆製ノ諸器類ハ總テ稀薄石炭酸水
(第二)ヲ以テ洗フヘシ

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ揮發性及ヒ固性傳染毒ニシテ全ク患者ノ身體ヨリ發出シ又ハ死體及ヒ痘漿、痘痂ニ
直接シテ感染スルノミナラス其患者ニ接觸セシ衣服、臥具其他一切ノ物品ヨリモ傳染シ又其病室
内ノ空氣、塵埃モ之カ媒介トナリテ其病毒ヲ傳送スルモノトス

痘瘡ハ古來ヨリ全世界ニ發現シ殊ニ惡性流行スルルハ其勢猖獗ニシテ無數ノ人衆ヲ害シ良醫モ亦
手ヲ束テ其術ヲ施スヘカラサルアリ但人生一回此病ニ罹ルルハ感受性ヲ脱盡シ得ルヲ以テ英國ノ
醫博士ジョンズ氏牛痘接種ノ法ヲ發明セシ以還其善感スル者ハ復タ天然痘ニ感スルナシ故ニ此
法行ハレテヨリ大ニ患者ノ數ヲ減シ偶々流行スルモ其病性劇惡ニ至ラス殆ント其性ヲ變スルニ至
ルヲ證スルニ足ル是故ニ種痘ヲ普及スルハ全ク此病ヲ防盡スル所以ニシテ即チ豫防ノ第一トス

第一項 清潔法

第一條 此病ハ各人感受性ヲ具フル故ニ一般清潔法ヲ要スルモ他病ニ於テ緊要トスルカ如クナラス但患者ノ居室ヲ清潔ニシ痘漿等ニ汚染セル衣服ヲ屢々更換シ周圍ノ塵埃ヲ掃除シ專ラ他人ニ傳染スルヲ防クヲ要スルニアルノミ

第二項 攝生法

第三條 前條ニ載スルカ如ク牛痘ヲ接種シテ其素因ヲ脱盡スルハ復タ天然痘ニ感スルコトナラレド一回種ヲ以テ足レトスヘキニ非ス再三接種シ其善感ノ確徵ヲ取ラサルヘカラス唯衣服、飲食等ノ攝生ヲ以テ此病ノ侵襲ヲ豫防スヘキニアラス

第三項 隔離法

第三條 醫師痘瘡ト診斷シタルハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 痘瘡ノ毒ハ患者ノ身體又ハ其衣服、臥具等ヨリ傳染シ又患者ニ接近シタル者ノ衣服等ヨリモ傳染スルヲ以テ成タケ患者ニ接近シ又ハ患者ノ用ヒタル衣服、器具等ニ觸ルヘカラス

第五條 自宅療養ノ患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成タケ接近スヘカラス已ムヲ得サル事故アルノ外ハ他人ト交通ヲ絶チ殊ニ未痘者ヲ近クヘカラス

第六條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用アル者ノ外成タケ之ヲ室内ニ入シムヘカラス但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ

第七條 病室内不用ノ器具ハ勿論殊ニ不用ノ毛布等ヲ置クヘカラス

第八條 患者死亡ノ後其屍傍ニ接近シ竝ニ死體ニ沐浴セシムル等ハ爲サ、ルヲ良トス

第九條 縱令輕症ナル患者ト雖モ落痂後一週日ヲ經ルニアラサレハ學校其他衆人群集ノ場所ニ行カシムヘカラス

第十條 蚊蠅ハ好テ患者ノ皮膚ニ聚リ頗ル病毒傳播ノ媒介トナスモノナレハ病床ニハ常ニ蚊帳ヲ張り蚊蠅及ヒ其他ノ小蟲ヲモ防クヘシ

第十一條 病室ハ消毒ノ後ト雖モ數週間未痘者ヲ入ルヘカラス

但同室内ニ於テ若シ復タ此病ニ罹ル者アルハ此病室ヲ用フルモ妨ケナシ

第十二條 西洋形船舶航海中若シ發病者アルハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外他人ト交通ヲ絶ツコト猶ホ人家ニ於ケルカトクスヘシ

第十三條 製造所、會社、學校、旅店等ニ在テ發病シ引取人ナキ者竝ニ狹隘不潔ノ地ニ雜居スル者等ニテ看護消毒法行届カス病室ノ傳播ヲ防キ難キ者ハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ若シ避病院アラサルハ適當ノ空室ニ移シテ之ヲ隔離スヘシ

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス住來繁多ノ路傍等ニ設クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲シヘシ

第十五條 避病院ヲ新ニ構造スルハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ窓戸ヲ闊大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニシ其屋根ハ板葺、苫葺等一時ノ便ニ任セテ可ナリ且ツ其病室ハ潤大ナルヲ要スルヲ以テ凡患者一人ニ二坪半ト見積リ之ヲ建設スヘシ

第十六條 避病院ノ病室ハ重症輕症ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪半ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令輻湊スルトモ一坪若クハ一坪半ニ一人ノ割合ヨリ狹クスヘカラス

但此他醫師詰所、事務所、看護人休息所等便宜ニ之ヲ設ケ且ツ簡易ノ薰蒸室ヲ設クヘシ

第十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ看護人、見舞人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ
第十八條 避病院ハ窓戶ヲ開大ニシ空氣ヲ流通セシメ冬時ハ暖爐ヲ置キ室内ノ溫度ヲ適宜ニシ空氣ノ代謝ヲ助ケヘシ

但病室ハ患者治癒死亡ノ後毎回消毒法ヲ施スヘシ
第十九條 避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡セタルハ直チニ此ニ移スヘシ但屍室ハ親族ノ弔者ヲ入ル、カ爲メ其餘地ヲ設クヘシ且ツ其弔者ハ成ダケ速ニ來ルノ手續ヲナスヲ要ス

第二十條 尋常病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設ケアリテ充分ニ隔離消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必シモ避病院ヲ設ルヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ假ニ之ヲ用フヘシ

第二十二條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ一人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ三人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ且ツ其表記アル衣服ヲ著セシメ成ダケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十三條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲ソコト望ムルハ既痘者ニ限リ之ヲ許スヘシ但屢々更替スルヲ許スヘカラス

第二十四條 患者ノ親族等一時見舞ヲ爲サント請フルハ之ヲ許スト雖モ成ダケ屢々スヘカラス其出ル時ニハ必ス充分ノ消毒法ヲ施スヘシ

第二十五條 流行ノ勢猛烈ナルルハ祭禮、劇場等衆人群集ノ事業ヲ差止メ學校モ成ダケ之ヲ閉ツルヲ良トス

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ膿漿、痲痘、呼吸、津唾及ヒ死體ヨリ傳染セ又患者ノ衣服、臥具、其他患者ニ接觸セシ器具及ヒ居室等ヨリモ傳染スルカ故ニ甚ク汚染セシモノハ成ダケ燒却スヘシ

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如ク

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒落痂ノ後一週日ヲ經テ初テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若シハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ著スヘシ看護人及ヒ患者屍體運搬人竝ニ避病院ノ醫師、死體取扱人等ノ他人ニ交接スルルモ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗フヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第三十條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ浸シタル單衣若シハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ斂ムヘシ

第三十一條 死體ハ成ダケ火葬セシムルヲ良トス埋葬シタルモノハ其病毒數十年ヲ經ルモ消滅セサルモノトス

第三十二條 西洋形船舶航海中ニ死者アルルハ速ニ濃厚石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ澆注スヘシ

但陸地ニ着スルハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ
第三十三條 落茄及ヒ病室ノ塵埃又ハ患者ニ觸レタル綿、布、紙等ノ斷片ニ至ル迄時々收拾シテ之ヲ燒却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第三十四條 患者ノ久シク用ヒタル衣服、臥具及ヒ避病院ニ用ヒタル蚊帳ノ甚シク病毒ニ浸染シタル者竝ニ避病院ノ臥具、疊、蓆等ハ之ヲ燒却スヘシ

第三十五條 患者ノ著タル衣服、臥具及ヒ手巾、蚊帳等又ハ死體ニ著セシ衣服等ノ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ澱キ浸シ置クヲ二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時間以上之ヲ煮沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサルモノハ品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若シハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ蒸蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第三十六條 避病院ノ醫師、看護人及ヒ死體運搬人等ノ衣服ニ施スヘキ消毒法ハ前條ニ同シ

第四 家屋船舶等消毒法

第三十七條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸柵等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル柱、板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他ノ器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ做フヘシ
但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第三十八條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕藉シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルハ滿室ノ乘客、積荷、手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乘客、手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ蒸スルノ後ニ非レハ陸揚スルヲ許サス

第三十九條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗淨スヘシ
第四十條 避病院或ハ便宜ニヨリ他ノ空屋ヲ借用セシモノハ其病室ニ供セシ部分ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ注キ石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

但消毒ノ後モ數週間其内ニ入ルヘカラス且ツ空氣ヲ流通セシムヘシ

第四十一條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十二條 臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカラスモノハ流行熄ムノ後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前汚穢シタル板敷、板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第四十三條 避病院ニ携ヘ來リシ手道具、玩具等ハ治愈若クハ死亡ノ後亞硫酸瓦斯(第九)蒸蒸法ヲ行ハサレハ之ヲ出スヘカラス

第四十四條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ澱注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其解舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第四十五條 病室ニ用ヒタル什具、玩具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ澱キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラスモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排

列シ、ハハ之ヲ蒸スルニキモ、ハハ亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間之ヲ蒸スルニシ
 第四十六條 患者ノ玩弄シタル圖書、書籍、新聞紙ノ類ハ之ヲ緋展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫
 酸瓦斯(第九)ヲ蒸スルニシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ
 第四十七條 醫術器械及ヒ木製、金製、陶製、漆製等ノ諸器ニシテ病毒ニ觸レタルモノハ總テ稀
 薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フニシ

種痘施行心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採取及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ
 詳知セサル可カラズ其要左ノ如シ

- 第一 種痘ノ適否
 - 一 生後七十日ヲ經サル者
 - 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
 - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
 - 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
 - 五 熱性病ニ罹リ居ル者
- 第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レト
モ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ
- 第二 接種ノ方法
 - 第三條 種痘ヲ施スハ上膊三稜筋ニ於テ各々三針乃至五針受痘者ノ年齢ニ隨フ各針ノ距離曲尺
五分以上ニシテ痘疱ノ暈輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

十八年内務省甲第
 九號達ヲ以テ種痘
 施行心得書追加

- 第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ
- 第五條 眞性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フコト能ハサルトキ
ハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新撰ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痴皮ハ用ヒサルヲ可トス
- 第三 痘苗採取及貯蓄ノ法
 - 第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採取スヘカラス
 - 一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發量非常ニ大ナル者 痂縁又ハ暈部ニ水泡ヲ生スル者 痘疱
 非常ニ隆起シテ證明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ
 者
 - 但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ
 - 二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者 痘疱ノ已ニ化膿ニ傾
 キル者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セル者
 - 三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者
 - 四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者第十三條ヲ參
 - 五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者
 - 第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日二十四時間ヲ以テ一ヲ以テ佳トスト雖時侯ノ寒暖及各
 人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘疱ハ善感眞性ノ者ニシテ其含
 包セル所ノ漿液ハ揮瀉セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ
 - 第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ痘面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セムヘカラス
 - 第九條 發痘一顯ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顯アルモ其一顯ハ傷クヘカラス
 - 第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細

管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜キヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點トス

一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否

二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否

三 紅暈ハ常形ナルヤ否

四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否

五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否

六 痂皮ハ黯褐色又ハ黒色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコトアリ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細少ノ水疱ト爲リ其周圍ニ狄キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水疱稍々増大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痲腫シ微シク疼痛アリ泡中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ユ水脈腫起スルコトアリ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ泡液乾燥シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液ト爲リ泡ノ中央稍々凸隆ス然レトモ其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ泡ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス

爾後黯褐色又ハ黒色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ビ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其ノ剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ

一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違フニシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ乾燥シ其隆起ノ狀或ハ半球形或圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺ユ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)

二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ泡ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セ

ル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル

三紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル

四第八日ニ至リ數泡相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣シ赤色ヲ呈ス

五痂皮剝脱ノ後ニ遺セル癩痕ハ深シテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故

更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ選ヒテ再ヒ接種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマ

テハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種ス

ルト間々之アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲グル者ト雖熱性病ヲ除

クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケヤメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等

ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

○乙第三十七號 (九月十三日 輪附 大藏通運)

本年八月乙第三拾四號達警視局員死傷者恩給並扶助料取扱順序條款中第五條但書左之通追加候條

此旨相達候事

第五條云々 但其權利未タ消絶セスシテ移轉ニ關スル者ハ直チニ寡婦孤兒扶助料出願之手續ヲ爲サシメ本

十五年內務省乙第
六十三號達ヲ以テ
廢止

文登錄寫帖還納ノ際同一ニ願書可差出申

府 縣東京府沖繩

○乙第三十八號 (九月十八日 輪附)

明治十三年度以降警部及備外國人ニ關スル諸費勘定帳書式別冊之通相定候條右ニ照準取調毎三箇

月中仕切正算之上翌月二十日限其地差立無違滯當省へ可差出且該費細目ハ會計検査院検査官各廳

ニ就キ検査之上査定之證ヲ交付候旨ニ付追テ該證ヲ内課簿ニ代ヘ差出候儀ト可心得此旨相達候事

(別冊略ス)

○乙第三十九號 (九月二十四日 輪附)

今般當省乙第三拾八號ヲ以警部及備外國人諸費勘定帳差出方相達候處近方急行ノ節旅費定則附例

三月第貳拾壹號ニ依リ支給スル車馬賃ハ雜給ノ内へ雇給ノ科目ヲ設ケ編入可致此旨更ニ相達候事

○乙第四十號 (十一月八日 輪附)

監獄本支署廢設之義ハ明治十一年第三十二號公達中事重大ニ關シ例規ナキ者云々トアルニ依リ常

省へ申稟之上可致處分之處無其備處分後届出候向モ間々有之事務經理上不都合ニ付自今廢設之時

時其理由ヲ詳カニ申稟スヘシ此旨相達候事

但從來未已決兩監之同所ニ在ル者ノ其一ヲ廢シ其一ヲ存スル等ノ義モ本文之通可相心得事

○乙第四十一號 (十一月十日)

昨年虎列刺病流行ノ餘本年尙再燃ノ兆アリシモ幸ニ蔓延ニ至ラス漸次終熄ニ趨キ候ニ付テハ各地

ニ取建候避病院ノ義存廢ノ見込相立夫々處分可致就テハ該院ニ於テ使用候家具物品等取調到底病

毒遺傳ノ虞ヲ免レサルモノハ燒棄候標可致尤十二年度虎列刺病豫防臨時費ヲ以テ建設候避病院ニ

テ將來地方稅若クハ其最寄町村協議費等ヲ以テ保存スヘキ見込有之分ハ建物物品共詮議ノ上下附

明治十三年九月十一日 内務省 達 乙第三十八號 乙第三十九號 乙第四十號 乙第四十一號

十五年內務省乙第
六十三號達ニ依リ
廢止

年月日

何縣知事令名印

警察費へ寄附金之者賞與施行濟屆

種目	金	高	盃	數	人
警察費百圓以上	何	同	何	個	何人内男女何人 何社町村
同拾圓以上	同	同	同	同	同
通計	金	何	何	何	何
種目	金	高	盃	數	人
警察費ヲ指出ス者褒詞之分	何	同	何	個	何人内男女何人 何社町村
通計	金	何	何	何	何

右ハ何年七月ヨリ本年六月マテ賞與並褒詞共施行濟之分云々

年月日

何縣知事令名印

道路橋梁費寄附金之者賞與施行濟屆

種目	金	高	盃	數	人
道路橋梁費百圓以上	何	同	何	個	何人内男女何人 何社町村
同拾圓以上	同	同	同	同	同
通計	金	何	何	何	何
種目	金	高	盃	數	人
道路橋梁費ヲ指出ス者褒詞ノ分	何	同	何	個	何人内男女何人 何社町村
通計	金	何	何	何	何

右ハ何年七月ヨリ本年六月マテ賞與並褒詞共施行濟之分云々

年月日

何縣知事令名印

勸業費へ寄付金之者賞與施行濟屆

種目	金	高	盃	數	人
勸業費百圓以上	何	同	何	個	何人内男女何人 何社町村
同拾圓以上	同	同	同	同	同
通計	金	何	何	何	何
種目	金	高	盃	數	人
勸業費ヲ指出ス者褒詞之分	何	同	何	個	何人内男女何人 何社町村
通計	金	何	何	何	何

右ハ何年七月ヨリ本年六月マテ賞與並褒詞共施行濟之分云々

年月日

何縣知事令名印

衛生及病院費へ寄附金ノ者賞與施行濟屆

種目	金	高	盃	數	人
衛生及病院費百圓以上	何	同	何	個	何人内男女何人 何社町村
通計	金	何	何	何	何

- 第二 甲板ニ設ケタル出入及ロ荷積口ハ其縁材必ス甲板面ヨリ高キモノニテ風波等ノ際船内ニ水ノ流入ヲ防キ且之ヲ密閉スヘキ外蓋ヲ備フ
- 第三 甲板上船舷ナキモノハ必ス周圍ニ欄干ヲ設ケ其高サ二尺ヨリ低カラサルモノ
- 第四 室内空氣流通ノ爲メ窓口ヲ設ケルモノハ堅固ナル戸扉ヲ備フ
- 第五 端舟ヲ釣リ得ヘキ船體ニ於テハ必ス之ヲ備ヘ其附屬品全備シ不時ノ用ニ適スルモノ
- 第六 舵ハ其取付ケ堅牢ニシテ必ス豫備ノ轉舵索ヲ船尾ニ備フ
- 第七 羅盤及ヒ救命浮子各一箇以上ヲ備ヘ其救命浮子ハ人體ヲシテ充分ニ水上ニ浮ミ得セシムヘキモノ
- 第八 相當ノ消防器具ヲ備フ
- 第九 船ノ噸數ニ應ジ其量目及ヒ大サノ適合セル錨及ヒ錨鎖ヲ備フ
- 第十 揚燈及ヒ信號器ハ總テ其製造規則ニ適合ノモノニテ且ツ舷燈ノ隔板ハ其位置正シク舷ニ裝置ス
- 第十一 汽笛及ヒ號鐘ハ其音響ノ障碍無キ場所ニ裝置シ且ツ號鐘ハ其内徑六寸六分ヨリ小ナラサルモノ
- 第十二 甲板上何レノ場所ヲ問ハス漏水ヲ排出スヘキ汚水唧筒一箇以上ヲ備フ
- 第二條 本船ノ汽機及ヒ所屬品ハ必ス左項ニ掲ケル如ク整備スヘキモノトス
 - 第一 機關ハ諸部適合ノモノニテ十分ニ整頓セシモノ
 - 第二 水線以下及ヒ其近傍ニ於テ裝置セシ船外ニ通スル管ハ必ス嘴子或ハ瓣ヲ備フ
 - 第三 錨及ヒ機關ニ屬スル相當ノ豫備品及ヒ附屬品ヲ備フ
 - 第四 冷汽器ヲ設ケル機關ハ正當ナル驗氣器ヲ備フ

十四年内務省乙第
十八號達十九年内
務省令第十六號ヲ
以テ廢止

明治十三年十一月 内務省 達 乙第四十六號

府 縣東京府

九四七

- 第五 汽罐ハ豫テ水試験ヲ經タルモノニテ平常用フル汽力ニ對シ新罐ハ其二倍十斤ノ汽力ヲ用斤古罐ハ其一倍半十斤ノ汽力ヲ用フ以上ノ力ニ堪フルモノ
 - 第六 安全弁ハ每鐘火床面積ノ一平方尺毎ニ必ス二分ノ一平方寸ノモノニ箇ヲ備ヘ平常用フル汽力ニ對スル重量ヲ定メ内一箇ハ外蓋ヲ備ヘ其外蓋ハ驗査員又ハ其重量ヲ定ムル方法ヲ明カニスル者ノ立會ヲ得サレハ開閉シ能ハサル設ケテ爲シタルモノ
 - 第七 驗汽器驗器驗温器ハ時々試験ヲ爲シ誤謬無キモノ
 - 第八 驗水器ハ每鐘硝子製ノモノト二箇以上ノ試験ト兩様ヲ備ヘタルモノ
 - 第九 汽罐二箇以上ニシテ塞汽機一個ヲ備ヘタルモノハ其塞汽機ヲヤテ各罐ノ汽路ヲ閉塞セシムルニ適スルモノ
 - 第十 蒸氣ヲ噴出セシムルタメ必ス排汽管ノ設ケアルモノ
 - 第三條 毎年一回以上檢査員ヲシテ船體汽機ヲ檢査セシメ故障ナキモノハ檢査證書ヲ其船主若シクハ船長ニ下附スヘシ但爾後ノ檢査以前ニ運航ニ堪ヘサルモノト見認ルルハ其運航ニ堪フヘキ時限ヲ檢査證書ニ記載スヘシ
 - 第四條 檢査證書ハ期限中船内ノ見易キ場所ニ揭示シ旅客等ノ見聞ニ供スヘシ
 - 第五條 檢査員ハ臨時ニ乗船シ船體汽機ノ整備セルヤ否ヲ檢査スルヲアルヘシ
 - 第六條 定時臨時ノ檢査ヲ問ハス檢査員ニ於テ船體汽機ニ故障アリト看認ルルハ本船ノ運航ヲ停止シ修繕若シクハ改造ヲ命スヘシ
 - 第七條 乗客ノ員數ハ本船製造ノ摸樣ト通航ノ地景ニ因テ制限スヘシト雖モ一坪六尺八人ヨリ超過セシムヘカラス
- 乙第四十六號 (十一月二十九日 輪原附)

○乙第四十七號 (十一月二十九日)

產業勸誘ノ爲起興セシ官設事業其種類ヲ區別シ起業ノ旨趣創始ノ年月資本金ノ出所及員數着手以來ノ景況並將來處分ノ見込等詳細取調至急可差出此旨相達候事

但本文ノ事業無之向ハ其旨可届出事

府 縣

○乙第四十八號 (十二月二日 輪廓附)

本年第四十九號ヲ以府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相達候事

一 常置委員ハ來十四年三月通常會ニ於テ選任シ其事務ハ十四年度即七月一日ヨリ取扱フモノトス

一 郡區經濟ヲ異ニスル府縣ニ在テハ定員内ニ於テ其郡區選出ノ人員ヲ定ムルヲ得

一 常置委員補缺ノ爲相當ノ豫備員ヲ選ビ置クモ妨ケナシ

一 第四十一條ニ據リ議長ハ府知事縣令之ヲ勸ムト雖本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得

一 第四十六條ノ通委員ノ任期ハ二ケ年タルヘント雖若シ議員本分ノ任期ヲ終ヘタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期モ終リタルモノトス

一 常置委員會議ノ細則ハ該會ニ於テ議決シ府知事縣令認可ノ上施行スヘキモノトス

府 縣

○乙第四十九號 (十二月三日 輪廓附)

今般太政官ヨリ被相達候旨モ有之山林ノ義ハ水陸生産ノ殖スル所國家經濟上最急ニスヘカラサル所ニシテ一タヒ其制ヲ愆レハ寒暑ノ序ヲ失ヒ水旱ノ禍ヲ招キ之ヲ大ニシテハ全國殖産ノ道ヲ妨ケ之ヲ小ニシテハ一家需用ノ缺乏ヲ來スハ必然ノ儀ニ付全國山林官民有ノ別ナク在來ノ材料ヲ愛惜シ濫伐野燒ノ憂ヲ防クハ勿論漸次閑地ニ於テ樹木植栽等ニ着手シ山林保護ノ道相立候標此際一層注意シ管下人民ハ懇口ニ相諭シ山林ノ荒衰ヲ挽回候標取計可申此旨相達候事

十七年內務省乙第四十號達ニ依リ消滅

○乙第五十號 (十二月六日 輪廓附)

明治八年當省乙第八十號達燒場取扱方心得書第三條左ノ通更正候條此旨相達候事

一 燒場ハ火爐烟筒及ヒ墻壁等ヲ設クヘシ尤人家遠隔ノ山野等ニ於テハ適宜簡易ノ裝置ヲナスモ不苦候事

府 縣

十五年農商務省第十三號達至看十八年同第十八號達ヲ以テ廢止

○乙第五十一號 (十二月十四日)

勸業資本金ヲ貸下ケタル事業ハ總テ其景況毎歲可届出管ニ候處自今ハ該業ノ都合ニ應シ年兩度實地検査ヲ遂ケ其利弊得失ヲ詳悉シ六月十二月ニ具狀可致尤臨時當省官員ヲ派遣シ検査爲致候儀モ可有之此旨相達候事

府 縣

但動物及農具或ハ器械等貸渡有之分モ本文ニ倣ヒ景況可届出事

府 縣

○乙第五十二號 (十二月十七日 輪廓附)

今般第六拾壹號公達ノ趣有之ニ付テハ自今社寺創立再興復舊等出願有之節ハ從來ノ手續ニヨリ取調尙左ノ條件精査ノ上當省ニ可伺出此旨相達候事

一 社寺創立再興復舊等ヲ要スル理由及建設後施行ノ目的

但再興復舊ハ當初廢絶合併ノ年月並次第共

一 社殿堂宇諸建物坪數繪圖面竝目論見仕様ノ事

一 永續資本ノ財產動産不動産等ノ細目 並發願者即爾後該社寺一切ノ總人員

一 境内地坪數及社寺名受若クハ人民共有名受ノ別

○乙第五十三號 (十二月二十三日 輪廓附)

本年當省乙第四十八號達第一項ヲ取消シ更ニ左之通改正候條此旨爲心得相達候事

一 常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ選任スヘシ

府 縣

二十三年法律第三十五號ニ依リ消滅

明治十三年十二月 內務省 達 乙第五十號 乙第五十一號 乙第五十二號 乙第五十三號

一十三年度中常置委員ノ月手當及往復旅費ハ委員ヲ選舉セシムル臨時會ニ於テ議定セシム可ク

- 丙第一號 (二月十日) 沿海府縣石川縣
(本文ハ石川縣下渡海船一艘所在不知ノ件略ス)
- 丙第二號 (二月十日) 沿海府縣石川縣
(本文ハ石川縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
- 丙第三號 (二月二十二日) 沿海府縣石川縣
(本文ハ石川縣下渡海船正徳丸所在不知ノ件略ス)
- 丙第四號 (二月二十二日) 沿海府縣千葉縣
(本文ハ千葉縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
- 丙第五號 (二月六日) 沿海府縣和歌山縣
(本文ハ和歌山縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
- 丙第六號 (二月十二日) 沿海府縣福島縣
(本文ハ福島縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
- 丙第七號 (二月十二日) 沿海府縣石川縣
(本文ハ石川縣下日本形商船壽吉丸所在不知ノ件略ス)
- 丙第八號 (二月十二日) 沿海府縣石川縣
(本文ハ石川縣下日本形商船明神丸所在不知ノ件略ス)
- 丙第九號 (二月二十三日) 沿海府縣山口縣
(本文ハ山口縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

- 丙第十號 (二月二十四日) 沿海府縣石川縣
(本文ハ石川縣下日本形商船順風丸所在不知ノ件略ス)
 - 丙第十一號 (二月二十八日) 東京府 京都府 大阪府 千葉縣 神奈川縣
埼玉縣 群馬縣 栃木縣 福島縣 宮城縣
岩手縣 山形縣 新潟縣 山梨縣 愛知縣
三重縣 滋賀縣 堺縣 廣島縣 高知縣
愛媛縣 島根縣 熊本縣 長崎縣 福岡縣
鹿児島縣
- 第二回内國勸業博覽會出品之木竹類官林内ニ有之分伐採爲致候旨ニ付其府下山林局出張員ヨリ及協議候ハ、差支無之様取計可申此旨相達候事
- 丙第十二號 (三月二日) 沿海府縣石川縣
(本文ハ石川縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
 - 丙第十三號 (三月三日) 沿海府縣和歌山縣
(本文ハ和歌山縣下漁船乘組人所在不知ノ件略ス)
 - 丙第十四號 (三月八日) 沿海府縣千葉縣
(本文ハ千葉縣下日本形商船有徳丸所在不知ノ件略ス)
 - 丙第十五號 (三月八日) 沿海府縣岡山縣
(本文ハ岡山縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
 - 丙第十六號 (三月十五日) 沿海府縣愛知縣
(本文ハ愛知縣下日本形商船神察丸並漁船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第十七號 (三月十五日)

(本文ハ石川縣下漁船二艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 石川縣

○丙第十八號 (三月十五日)

(本文ハ兵庫縣下西洋形風帆船九二丸所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 兵庫縣

○丙第十九號 (三月十五日)

(本文ハ愛媛縣下日本形商船朝吉丸所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 愛媛縣

○丙第二十號 (三月十六日)

(本文ハ京都府下日本形商船長壽丸所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 京都府

○丙第二十一號 (三月十九日)

(本文ハ島根縣下小船一艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 島根縣

○丙第二十二號 (四月二日 輪原附)

東京府 兵庫縣 長崎縣 福島縣 愛媛縣 山形縣

無謝料種痘施術之者價直ニ積リ賞與取計候處詮議之次第有之自今八年第二百二十壹號公達中篤行奇特者賞與條例ニ照シ金賞可取計此旨相達候事

○丙第二十三號 (四月五日)

(本文ハ青森縣下漁船二艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 青森縣

○丙第二十四號 (四月七日)

(本文ハ青森縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 青森縣

○丙第二十五號 (四月九日)

(本文ハ高知縣下日本形商船杉正丸附島傳馬船一艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 高知縣

十四年太政官第百三號達ニ依リ消滅

十四年第十七號布告十五年太政官第百十號達ニ依リ消滅

同上

○丙第二十六號 (四月十二日)

(本文ハ愛媛縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 愛媛縣

○丙第二十七號 (四月十六日 輪原附)

東京府 神奈川縣 靜岡縣 山梨縣 埼玉縣 長野縣 千葉縣 群馬縣 栃木縣

客年四月當省丙第二十號ヲ以テ役因遞送規則相達候處其第一條ノ左ノ通但書追加候條此旨相達候事

○丙第二十八號 (四月十六日)

但役期壹年半ノ宣告ヲ受タル者ハ本條殘役期計算ニ拘ラス該日ヨリ一箇月以內ニ送附スヘシ

宮城縣 茨城縣 福島縣 岩手縣 青森縣 秋田縣 山形縣 新潟縣

客年九月當省丙第四拾九號ヲ以テ役因遞送規則相達候處其第一條ノ左ノ通但書追加候條此旨相達候事

○丙第二十九號 (四月十九日)

但役期壹年半ノ宣告ヲ受タル者ハ本條殘役期計算ニ拘ラス該日ヨリ一箇月以內ニ送附スヘシ

沿海府縣 岩手縣

○丙第三十號 (四月十九日)

(本文ハ岩手縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 秋田縣

○丙第三十一號 (四月十九日)

(本文ハ鹿兒島縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 鹿兒島縣

○丙第三十二號 (四月十九日)

(本文ハ福島縣下漁船二艘所在不知ノ件略ス)

沿海府縣 福島縣

○丙第三十三號 (四月二十七日)

沿海府 縣 愛知縣 除ク

(本文ハ愛知縣下日本形商船德吉丸所在不知ノ件略ス)

東京府 京都府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣
三重縣 愛知縣 山梨縣 滋賀縣 岐阜縣

○丙第三十四號 (四月二十八日 輪席附)
今般山梨三重京都府へ 御巡幸ニ付御休泊行在所其外道路橋梁新設修繕等一切ノ費用ハ都テ官費支給ノ管ニ付右修築等着手前ノモノハ廉書ヲ以テ御先發官員ノ檢印ヲ請ケ置精算仕上勘定帳へ右檢印ノ書類相添大藏省へ可差出此旨相達候事

○丙第三十五號 (四月二十九日 輪席附)

三重縣 愛知縣 山梨縣 岐阜縣 長野縣
神奈川縣 京都府 兵庫縣 大阪府 滋賀縣

今般 御巡幸ニ付其管内御順路御警備之儀ハ都テ警部巡查ニ於テ可相勸右人員配置及心得方等ハ警視局長ヨリ可及照會候條尙協議可取計此旨相達候事

○丙第三十六號 (四月二十九日 輪席附)

三重縣 愛知縣 山梨縣 岐阜縣 長野縣
神奈川縣 京都府 兵庫縣 大阪府 滋賀縣

今般 御巡幸御順路御警備之儀ニ付供奉警視官ヨリ直チニ警部巡查へ指揮スル儀モ可有之候條此旨豫テ相達候事

○丙第三十七號 (四月三十日)

沿海府 縣 岩手縣 除ク

(本文ハ岩手縣下日本形商船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第三十八號 (五月三日 輪席附)

兵庫縣 愛知縣 廣島縣 岡山縣 高知縣

本年七月ヨリ來十四年六月迄一周歲河港道路經費目途金之儀別紙之金額ヲ以可致施行此旨相達候事

但内譯科目整理可差出事 (別紙)

一金三萬貳千貳百參拾七圓

兵庫縣 愛知縣

一金貳萬八千六百六拾六圓

廣島縣 岡山縣

一金參千百貳拾圓

廣島縣 岡山縣

一金壹萬九百七拾圓

高知縣

○丙第三十九號 (五月三日 輪席附)

東京府 京都府 埼玉縣 千葉縣 群馬縣

本年七月ヨリ來十四年六月迄一周歲河港道路經費目途金之儀別紙之金額ヲ以可致施行此旨相達候事

事

(別紙)

一金貳千七百三拾五圓	河	東京府
一金四千九百六拾四圓	河	河
一金四千貳百六拾五圓	同	同
一金壹萬六千五百八拾三圓	同	同
一金七千七百拾貳圓	同	同
一金貳萬三千四百七拾四圓	同	同
一金貳萬四千八拾四圓	同	同
一金壹萬六千四百六拾五圓	同	同
一金五萬三百貳拾四圓	同	同
一金貳萬七千七百七拾壹圓	同	同
一金壹萬七千五百拾七圓	同	同

一金貳萬貳百五拾壹圓	同	岐阜縣
一金四千貳百拾貳圓	同	宮城縣
一金四千八百八拾壹圓	同	福島縣
一金貳千八百六拾四圓	同	岩手縣
一金貳萬三千八百八圓	同	山梨縣
一金壹萬六千五百貳圓	同	德島縣
一金壹萬九千六百四拾六圓	同	和歌山縣

○丙第四十號 (五月三日 輪原附)

大阪府	神奈川縣	長崎縣	茨城縣	堺縣
三重縣	滋賀縣	長野縣	青森縣	山形縣
石川縣	島根縣	山口縣	愛媛縣	福岡縣
大分縣	熊本縣	鹿兒島縣		

本年七月ヨリ來十四年六月迄一周歲河港道路橋梁經費目途金之備客歲五月二十九日相達候通可相心得此旨相達候事

明治十三年五月六月 丙務省 達
 丙第四十一號 丙第四十二號 丙第四十三號 丙第四十四號 丙第四十五號
 丙第四十六號 丙第四十七號 丙第四十八號 丙第四十九號
 丙第五十號
 九六〇

○丙第四十一號 (五月四日) 沿海府縣新瀨縣
 (本文ハ新瀨縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第四十二號 (五月七日) 沿海府縣石川縣
 (本文ハ石川縣下日本形商船又福丸明榮丸所在不知ノ件略ス)
 ○丙第四十三號 (五月七日) 沿海府縣兵庫縣
 (本文ハ兵庫縣下漁船二艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第四十四號 (五月十二日) 沿海府縣宮城縣
 (本文ハ宮城縣下小船二艘並漁船一艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第四十五號 (五月十四日) 沿海府縣青森縣
 (本文ハ青森縣下漁船二艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第四十六號 (五月十七日) 沿海府縣千葉縣
 (本文ハ千葉縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第四十七號 (五月二十一日) 沿海府縣沖繩縣
 (本文ハ沖繩縣下小船一艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第四十八號 (五月二十七日) 沿海府縣鹿兒島縣
 (本文ハ鹿兒島縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第四十九號 (五月三十一日) 沿海府縣沖繩縣
 (本文ハ沖繩縣下琉球形商船一艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第五十號 (六月五日 輪廓附) 東京府 京都府 大阪府 神奈川縣 長崎縣
 新瀨縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 栃木縣

丙第五十四號達丙
 第六十四號達十九
 年勅令第十八號參
 看

官林保護之儀ニ付而ハ追而相達候儀モ可有之候得共差向本年七月一日以後ハ從前當省山林局出張
 官ニ於テ取扱ヒシ官林看守人若クハ植林苗圃等ノ儀ハ總テ其縣ニ依テ候條該出張官ヨリ請取可申
 右ニ關スル費用ハ追而當省ヨリ可下渡ニ付一層嚴重取締ヲナシ漸次林相ヲ改良候條篤注意可致尤
 當省ヨリ臨時官員ヲ派出シ官林ヲ觀察候儀モ可有之其邊兼テ相心得可申此旨相達候事
 ○丙第五十一號 (六月八日) 沿海府縣岡山縣
 (本文ハ岡山縣下小船一艘所在不知ノ件略ス)
 ○丙第五十二號 (六月十四日) 沿海府縣石川縣
 (本文ハ石川縣下日本形商船德壽丸永寶丸所在不知ノ件略ス)
 ○丙第五十三號 (六月二十六日 輪廓附) 東京府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣
 新瀨縣
 本邦在留獨逸國辦理公使アヒゼンデッヘル氏今般特命全權公使ニ昇級候旨申越候條爲心得此旨相
 達候事
 ○丙第五十四號 (七月九日 輪廓附) 府縣青森縣秋田縣岩手縣山形縣宮城縣
 官林保護ニ付日給備員並官林看守人給料及旅費別紙ノ通相定候條本年七月一日ヨリ施行可致此旨
 相達候事 (別紙)

十四年太政官第二
 十六號達ヲ以テ山
 林局ヲ農商務省ニ
 屬ス

十九年農商務省訓
 令第十一號ヲ以テ
 旅費ニ關スル事項
 廢止以下做之

明治十三年六月七月 丙務省 達 丙第五十一號 丙第五十二號 丙第五十三號 丙第五十四號 九六一

備員並監守人給料及旅費表

備員日給表

備員	一	二	三	四	五	六	七
日給	四拾錢	三拾五錢	三拾錢	貳拾五錢	貳拾錢	拾五錢	拾錢

監守人年給表

官林監守人	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等
年給	拾五圓	拾四圓	拾三圓	拾貳圓	拾壹圓	拾圓	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓	三圓

備員並監守人旅費日當表

一府縣管内

日給	備員	並	旅	行	巡	同	在
旅費	日當	五拾錢	五拾錢	五拾錢	貳拾五錢	貳拾五錢	五錢

給料旅費支給例

一官林保護ニ付日給備員官林巡視人ハ給料ハ表面ノ通支給スヘシ
 (但)但臨時雇ハ表面ノ等給ニ拘ハラズ日給拾錢ヨリ四拾錢迄ノ内ヲ以テ適宜支給スルコトヲ得
 一官林監守人筆墨紙料トシテ年々金壹圓ヲ附與ス
 一官林監守人年給表面及筆墨紙料ハ六月十二月兩度ニ半年分ツ、支給スヘシ
 但解職病死其他非常ノ事故アル時ハ此限ニアラス
 一監守人備入解備病死等ノ節年給及筆墨紙料ハ十五日前後ヲ以テ一月半月ノ區分ヲ立テ相渡スヘシ

十八年農商務省第
 二十四號達ヲ以テ
 年給表中十四等
 貳圓五拾錢十五等
 貳圓四拾錢十六等
 貳圓三拾錢十七等
 拾錢十七等並圓
 拾錢十七等並圓
 拾錢十七等並圓

十八年農商務省第
 二十四號達ヲ以テ
 但書追加
 十八年農商務省第
 四十五號達ヲ以テ
 六月十二月ヲ以テ
 九月トシテ半年分
 二箇月ト改正
 二十二年農商務省
 訓令第十五號參看

十四年農商務省第
 第十一號達ニ依リ
 消滅

一、日給備員官林巡視人及官林監守人旅費ハ表面ノ通リ支給スヘシ尤里數日數等計算支給方ハ一
 般ノ定則ニ據ルヘシ
 一、官林監守人該官林ヲ巡察スルハ監守人ノ常務ナルヲ以テ旅費ヲ給セス殊更ニ出張申付及ヒ盜伐
 木事件ニ付地方廳又ハ警察署等へ出張スル時ニ限リ其旅費ヲ支給スルモノトス
 一、日給備員及官林監守人備入並解備歸郷ノ旅費ハ一切支給セサルヘシ
 一、旅費日當ハ各所ノ便宜ニ依リ此支給例ニ基キ適宜減少ノ方法ヲ設クルハ苦シカラス其時々届出
 スヘシ

○丙第五十五號 (七月二十六日 諭旨附 大藏卿連署)

- 兵庫縣 長野縣 岡山縣 茨城縣 青森縣
- 山口縣 靜岡縣 秋田縣 和歌山縣 岐阜縣
- 石川縣 大分縣

明治十一年十二月大藏省乙第七十二號ヲ以テ國稅金領收順序相違置候處其縣下官林ノ備ハ內務省山
 林局出張所ニ於テ取扱來リ候ニ付官林ニ關スル收入順序ノ備ハ別紙ノ通相定候條此旨相達候事
 (別紙)

內務省山林局出張所官林收入金取扱順序

第一條 山林局直轄所諸收入領收方ハ明治十一年十二月大藏省乙第七十二號國稅金領收順序ニ據
 ル者トス故ニ其出張所官吏ハ該管内官林借地及ヒ諸拂下ケテ許可シタル上ハ直ニ第一號書式ノ
 報告書ヲ作り臺帳ト割印ヲ爲シテ郡區長ニ收入方ヲ報告スヘシ
 第二條 郡區長ハ右報告書ヲ得タル上七十二號ニ定メタル所ノ順序ニ據リテ收入之ヲ收稅委員
 ニ送附シ共領收證書ヲ得テ山林局出張所へ納ムヘシ

第三條 山林局出張所ハ郡區長ヨリ收稅委員ノ領收證書ヲ得タル上第二號ノ上納證ヲ調製シ委員ノ領收證ヲ添へ前月分ハ翌月五日迄ニ其地ヲ發シ山林局ニ差出スヘシ

(△印ハ朱書)

△第一號

報告書

申何號 何國何郡何村

明治何年度分 納人 何ノ誰

山林局何 出帳所 △山林局出張所官吏ノ印

一金何程 ○山林局出張所官吏ノ印

但何縣下何國何郡何村何山立木拂代(但科目ヲ異ニスル)年月日許可

右可被相納候也

年月日

内務省山林局 何出張所 △印

何郡役所御中

△第二號

明治何年何月分上納證

何縣下何國何郡何村何山 何國何郡何村

一金何程 納人 何ノ誰

此木數 何程 但登本ニ付 金何程

是レハ何年何月何日第何號ヲ以テ拂下方相何月何日御許可濟ノ分

以下種類ヲ異ニスルモノハ一々列記シ其會計年度ノ異ナルモノハ別紙ニ認ムヘシ

合金何程 但收稅委員領收 但監何業副

但明治何年度分

右上納候也

年月日 山林局出張所 官姓名印

山林局長宛

○丙第五十六號 (七月二十七日)

沿海府縣鹿兒島縣

(本文ハ鹿兒島縣下日本形商船春日丸所在不知ノ件略ス)

○丙第五十七號 (七月二十七日)

沿海府縣靜岡縣

(本文ハ靜岡縣下日本形商船庚丸所在不知ノ件略ス)

年季ヲ以官費給與之分ハ該年季中從前之通りタルヘキ事

○丙第六十二號 (九月十一日)

沿海府 縣宮城縣

(本文ハ宮城縣下日本形船權現丸所在不知ノ件略ス)

○丙第六十三號 (九月十一日)

沿海府 縣千葉縣

(本文ハ千葉縣下押送船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第六十四號 (十月一日 輪廓附)

東京府	京都府	大阪府	神奈川縣	長崎縣
埼玉縣	新潟縣	群馬縣	千葉縣	堺縣
栃木縣	三重縣	愛知縣	山梨縣	滋賀縣
宮城縣	福島縣	山形縣	岩手縣	島根縣
廣島縣	愛媛縣	高知縣	徳島縣	福岡縣
熊本縣	鹿児島縣			

(△印ハ朱書)

明治十三年六月當省丙第五十號ヲ以相違候官林爲保護費十三年度定額金額何程可相渡候條別紙經費科目表ニ依ヒ豫算帳簿式ハ本年大藏省乙第六號ヲ調理シ往返日數ヲ除キ三日限り可差出此旨相違候事

但該費小科目之儀ハ俸給及ヒ雜給賜費樹林費新植費之五項ヲ以適宜配當可差出且渡方及ヒ勘定仕上之手續ハ追而可相達事

(別紙)

十三年度未直轄地方官林保護費豫算配賦調

一金百圓	東京府
一金千五百圓	京都府

一金貳百圓
一金千五百圓
一金貳千圓
一金千五百圓
一金貳千五百圓
一金千五百圓
一金千五百圓
一金千五百圓
一金千五百圓
一金貳千圓
一金貳千五百圓
一金千五百圓
一金貳千圓
一金千五百圓
一金千五百圓
一金貳千圓
一金千五百圓

大阪府	神奈川縣	長崎縣	埼玉縣	新潟縣	群馬縣	千葉縣	堺縣	栃木縣	三重縣	愛知縣	山梨縣	滋賀縣	宮城縣	福島縣	山形縣	岩手縣	島根縣	廣島縣	愛媛縣
-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

備給	木竹手入足賃竹材給人給付林園墾結人足賃等給 ヲ在來樹竹手入ノ爲使用スル日雇人足ノ類 木竹手入用鐵線鋸斧繩竹ノ類
雜品費	同上ノ雜品運送費
運搬費	苗小屋借料
雜費	
新植費	
備給	苗圃地開墾人足賃其他植付時付草取等植樹上一切 ニ使用スル日雇人足賃人給ノ類
苗木購買	
樹質購買	苗圃培養植付時付草取等ニ用ニル鐵線竹蒸桶 肥料其他植樹上必需ノ諸雜品 苗木樹質等ノ運送費
雜品費	苗木樹質等ノ運送費
運搬費	苗圃開設等ノ爲買上ルモノ
土地購買	苗圃地等ノ借料苗小屋借料町村協議費等
雜費	

○丙第六十五號 (十月八日)

東京警視本署
府縣東京府沖繩

鳥獸獵期伸縮許可之場所ニ於テ定期免許之者更ニ伸期願出免許候節ハ免狀書換手数料不及取立ニ
本人所持之免狀月日ノ書改候儀ト可相心得此旨相達候事
但從前之同指令等抵觸之分ハ總テ取消候儀ト可相心得事
○丙第六十六號 (十月八日)
沿海府縣ヲ除ク

○丙第六十七號 (十月十二日)

東京警視本署
開港場アル
府 縣

明治十一年當省丙第五十三號達外國人銃獵免許證及條約トモ第三條別紙之通改正候條此旨相達候
事

(別紙)

第三條 出獵スルハ必ス此免狀ヲ携帶スヘシ若シ銃獵シ得ヘキ場所或ハ其近傍ニ於テ其筋ノ日
本官吏ノ求メアルハ速カニ免狀ヲ示シテ點檢ヲ受クヘシ

○丙第六十八號 (十月十三日 輪圖附)

- 東京府 京都府 大坂府 神奈川縣 長崎縣
- 新潟縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 枋木縣
- 堺縣 三重縣 愛知縣 山梨縣 滋賀縣
- 福島縣 宮城縣 岩手縣 山形縣 島根縣
- 廣島縣 高知縣 德島縣 愛媛縣 福岡縣
- 熊本縣 鹿兒島縣

官林保護費定額本年十月當省丙第六拾四號ヲ以相達置候處該費受授及勘定手續書別紙ノ通相定候條
右ニ照準可取扱此旨相達候事

(別紙)

官林保護費受授及勘定手續書
第一條 受授ノ事

第十四年度農務省
第七十七號達ヲ
以テ改正

第一節 官林保護費ハ事業ノ順序ニ應シ費金ヲ要スルノ緩急アルヘキカ故ニ實際ノ費金ヲ考量

第二節 當省ハ右請求書ヲ得タル上ハ該書ニ照シ毎三箇月分ヲ取廻メ遞送スルモノトス

第二節 府縣ハ毎月勘定ヲ第二號書式ニ倣ヒ調製シ本人ノ受取書相副翌月五日限リ該地發差出

第二節 年末勘定帳本省調査濟ノ上ハ第三號書式ノ勘定濟證書交付スルモノトス

(書式略ス)

○丙第六十九號 (十月十六日 檢附)

東京府 千葉縣 埼玉縣 茨城縣 群馬縣
栃木縣

今般利根並江戶渡良瀬川等土木局ニ於テ追々全川測量爲致候處沿岸官民地トモ竹木其他葭等生立
チ伐採不致候テハ見通シ難相付箇所有之依テ民有地ニ係ル分伐採之節ハ直ニ出張員ヨリ該持主ニ
對シ示談可致候條右沿岸諸村ヘ達置可申此旨相達候事

○丙第七十號 (十月二十七日)

沿海府縣 鹿兒島縣

(本文ハ鹿兒島縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第七十一號 (十月二十七日)

沿海府縣 鹿兒島縣

(本文ハ鹿兒島縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第七十二號 (十一月十二日 檢附)

大阪府 兵庫縣 愛媛縣 靜岡縣 愛知縣
長崎縣 岐阜縣 石川縣

虎別刺病豫防從事中感染死亡候戸長手當金之額ニ付去八月十一日相達候處戸長ノ儀ハ官吏ニ準シ

候モノニ付明治十年第八十九號公達ニ依ラヌ去六月廿四日相達候金額ノ通支給候義ト可相心得此
旨更ニ相達候事

(參照) ○明治三十三年六月二十四日內務省無號達

長崎縣外一府七縣

其縣戸長何ニ儀虎別刺病豫防ニ從事中感染死亡候ニ付手當金ノ儀何客年月日ヲ以テ指令及ヒ候處右指令取消候條用
發料三拾圓遺族扶助料百圓宛十二年度虎別刺病豫防臨時費ノ内ヲ以テ給與可致此旨更ニ相達候事

○丙第七十三號 (十二月四日)

沿海府縣 大阪府

(本文ハ大阪府下日本形商船廣久丸所在不知ノ件略ス)

○丙第七十四號 (十二月六日)

沿海府縣 鹿兒島縣

(本文ハ鹿兒島縣下日本形商船正徳丸所在不知ノ件略ス)

○丙第七十五號 (十二月七日 檢附)

和歌山縣 兵庫縣 岡山縣 廣島縣 山口縣
德島縣 高知縣 愛媛縣 福岡縣 大分縣

小形旅客瀛船取締之儀ニ付乙第四十五號ヲ以テ相達候處其縣下小瀛船之儀ハ近縣及大阪府等ヘ交
通航候ニ付甲乙地ニ於テ取締向可成區々不相成様當省ヨリ其筋ノモノ一時同府ヘ派出協議爲致候
條其縣ヨリモ委員同府ヘ可差出此旨相達候事

但當省ヨリ吏員派出之時限ハ追テ驛遞局ヨリ通知候義ト可相心得事

○丁第一號 (三月三十一日 檢附)

神宮並官國幣社

各社宮司交替ノ節社務受渡ノ儀ハ八年教部省甲第拾四號達ノ趣モ候處自今必ス該地方官員立會受
渡届書並目錄等調査ノ上檢印可爲致答ニ候條此旨爲心得相達候事

明治三十三年十二月

內務省 達

丙第七十三號

丙第七十四號

丙第七十五號

○戊第一號 (六月十九日)
別紙乙第貳拾七號ノ通り各府縣へ相達候條此旨相達候事(別紙ハ上ニ載ス)

神佛各管長

○一月六日

府 縣

虎列刺病豫防方法聚議ノ爲來ル二月中旬衛生事務主任ノ者當省へ差出候條可取計此旨相達候事

府 縣

○一月六日
昨明治十二年乙第五十五號ヲ以テ衛生課設置ノ儀相達候ニ付テハ至急該課員ヲ撰定シ右職務章程並乙第五十六號町村衛生委員設置ノ方法共往復日數ヲ除キ十五日間ニ取調伺出候條可致此旨相達候事

府 縣

三月二十四日番外
達ヲ以テ取消

○番外 (二月十八日 大藏卿連署)

府 縣

綿糖共進會規則第二條中初製糖ノ分注ハ取除候條此旨相達候事

府 縣

○番外 (三月二十四日 大藏卿連署)

府 縣

綿糖共進會規則第二條中初製糖ノ分注ハ取消候條此旨相達候事

神佛各管長

○番外 (四月十七日)
虎列刺病ノ懼ルヘキ既ニ昨年ノ如キハ殊ニ其慘毒ヲ極メ尙本年ニ於テ再燃ノ程モ測ルヘカラサルニ付テハ人民各自自衛ノ方ヲ盡シ流行ノ際ハ勿論平素ノ衛生等最モ注意可致處動モスレハ之ヲ輕忽ニスルモノ鮮ナカラサルハ畢竟其病勢ノ眞ニ懼ルヘキト其豫防ノ實ニ怠ルヘカラサルトヲ詳知ヒサルニ由ル就テハ人民ヲシテ各自其身體ノ健全ヲ保セサルヘカラサルヲ知リ以テ自衛ノ念ヲ生セシムルハ自カラ教導職ノ説諭ニ因ルモノナルヲ以テ今般當省於テ虎列刺病豫防諭解ヲ刊行シ相達候條至急各地教院へ頒布可致尤右ハ各地書肆ニ於テモ廣ク發賣差許置候儀ニ付教導職於テモ成ヘ

○番外 (四月二十一日)
普子ヲ携帶ノ上説教ノ際右旨趣ニ依リ所在人民へ懇篤説諭偏子ク豫防ノ効ヲ奏シ候條可爲致此旨諭達候事(説諭書略ス)

但教徒ノ内教法上ノ加持祈禱等ヲ以テ醫藥及ヒ豫防方ノ妨害ヲ爲スカ如キ心得違ノ者無之様取締致スヘシ

府 縣
東京府 徳島縣
神戶縣 津縣 除ク

明治十一年七月ヨリ十二年六月ニ至ル民費又ハ地ノ内警察費ノ目收入並仕拂高左ノ書式ニ準シ取調來五月十五日限り可差出此旨相達候事

明治十一年七月ヨリ
同十二年六月ニ至ル

警察民費又ハ地ノ内
一 收入高金何程

府 縣
一 仕拂高金何程

府 縣
縣稅金何程 地方稅ニ改正ノ向ハ其課目ニ從フ但十一年度後半期ヨリ
課出金何程 改正ノ向ハ前半年期民費ノ分共兩様記載スヘシ

府 縣
一 仕拂高金何程

府 縣
縣稅金何程 同上

府 縣
課出金何程

府 縣
一 仕拂高金何程

○番外 (四月二十六日)

府 縣

明治十三年四月 丙務省 達 番外

九七九

拙者儀大阪出張中品川少輔省務代理候處今般歸京候ニ付代理解任候條此旨相達候事(内務卿松方正義)

○番外 (四月二十九日)

這回集會條例御發行ニ付明治十一年十二月四日當省番外達集會取締方警察官心得廢止候條右ニ付其應ニ於テ管下ニ布達候儀モ廢止致スヘシ此旨相達候事

府 縣東京府
府 縣東京府

○番外 (五月六日)

這回集會條例御發行ニ付テハ該條例ニ觸レ警察官ニ於テ處分セシ分並罰科ニ處セラレタル分共其時々事由詳細當省ニ可届出此旨相達候事

神宮竝官國幣社神官

○番外 (七月八日 輪原附)

本年暑中休暇ノ儀總テ十一年七月當省番外達ノ通可心得此旨相達候事

府 縣

○番外 (八月十二日 輪原附)

當省ニ於テ内國地質調査ノ爲メ調査員ヲシテ各府縣ニ巡回セシメ候條此旨相達候事

府 縣東京府神繩
縣 縣東京府神繩

○番外 (十一月十五日 輪原附)

當省ニ於テ至急參照スヘキ義有之候條別紙雛形之通獄舎各房中ノ坪數及ヒ現人員共個所毎ニ取調往復ヲ除キ十日間ニ可差出此旨相達候事

(別紙)

監獄坪數明細書

何處監獄(地名ヲ冠セス)

未決監

内

男監

但幾房ハ何年何月ノ建築幾房ハ何年何月ト詳細ニ記載ス

内

幾坪

幾坪

幾坪

幾坪

女監

但建築ノ年月ヲ記載スルハ男監ニ同シ

内

幾坪

幾坪

幾坪

幾坪

病監

但書前ニ同シ

内

幾坪

幾坪

幾坪

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

幾房

已決監

内

但外鞘其他ヲ除クハ前ニ同シ

男監

内

但每房建築ノ年月ヲ記載スルハ未決監ト同シ

幾坪

幾房

幾坪

幾房

幾坪

幾房

女監

但書前ニ同シ

幾房

内

幾坪

幾房

幾坪

幾房

幾坪

幾房

禁獄室

但書前ニ同シ

幾房

内

但外鞘其他ヲ除クハ前ニ同シ

幾坪

幾房

幾坪

幾房

懲治監

但書前ニ同シ

幾房

内

幾坪

幾房

幾坪

幾房

幾坪

幾房

幾坪

幾房

病監

但書前ニ同シ

幾房

内

幾坪

幾房

幾坪

幾房

幾坪

幾房

但外鞘其他ヲ除クハ前ニ同シ

未決囚

幾人

明治十三年十月卅一日 現員

内	幾坪	幾房
幾坪	幾房	
幾坪	幾房	
但外鞘其他ヲ除クハ前ニ同シ	幾房	
女監	幾房	
但書前ニ同シ	幾房	
内	幾房	
幾坪	幾房	
幾坪	幾房	
幾坪	幾房	
但外鞘其他ヲ除クハ前ニ同シ	幾房	
禁獄室	幾房	
但書前ニ同シ	幾房	
内	幾房	
幾坪	幾房	
幾坪	幾房	
幾坪	幾房	
但外鞘其他ヲ除クハ前ニ同シ	幾房	
懲治監	幾房	

但書前ニ同シ	幾房
内	幾房
幾坪	幾房
幾坪	幾房
幾坪	幾房
但外鞘其他ヲ除クハ前ニ同シ	幾房
病監	幾房
但書前ニ同シ	幾房
内	幾房
幾坪	幾房
幾坪	幾房
幾坪	幾房
但外鞘其他ヲ除クハ前ニ同シ	幾房
明治十三年十月卅一日 現員	幾人
未決囚	幾人
内	幾人
男	幾人
女	幾人
已決囚	幾人
内	幾人

男	幾人
女	幾人
禁獄人	幾人
懲治人	幾人
内	幾人
男	幾人
女	幾人
右之通ニ候也	何 (府) (縣)
年	
月	
日	

大藏省 布達

- 甲第一號 (一月九日)
(本文ハ東京府士族石川遠明記名秩祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第二號 (二月九日)
(本文ハ長野縣士族黒河内修正所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第三號 (二月十四日)
(本文ハ静岡縣士族栗原喜久治所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第四號 (二月十四日)
(本文ハ堺縣下吉田庄治所有起業公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第五號 (二月十六日 輪原附)
今般國立銀行條例ヲ遵奉シ開拓使管下渡島國龜田郡函館内洞町二番地ニ設立シタル第四百十九國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トシテ更ニ引換準備金ヲ置キ銀行紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布達候事
- 但右紙幣ノ儀ハ明治十年月十二第九十號同十一年月第十六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事
- 甲第六號 (二月二十一日)
(本文ハ兵庫縣士族藤本政直所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

十八年大藏省第七十四號告示ヲ以テ東京府士族石川遠明記名秩祿公債證書所在不分明ノ件略ス

明治十三年一月二月 大藏省 布達 甲第七號 甲第八號 甲第九號 甲第十號 甲第十一號
甲第十二號 甲第十三號 甲第十四號 甲第十五號 甲第十六號

九九〇

- 甲第七號 (二月二十一日)
(本文ハ長崎縣士族江島源吉外二名記名金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第八號 (二月二十一日)
(本文ハ山口縣士族吉井友太郎外一名記名金祿公債證書盜難竝紛失ノ件略ス)
- 甲第九號 (二月二十二日)
(本文ハ三重縣下川崎信次郎所有起業公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第十號 (二月二十二日)
(本文ハ兵庫縣士族駒崎秀喬所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第十一號 (二月二十二日)
(本文ハ兵庫縣士族本山勝馬所有秩祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第十二號 (二月二十七日)
(本文ハ三重縣士族桑名羅馬所有秩祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第十三號 (二月二十八日)
(本文ハ石川縣士族涌島照太郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第十四號 (二月二日)
昨十二年甲第一百一號布達當省內造幣局出張所地金受取方ノ儀ハ本月五日ヨリ相始メ候條此旨布達候事
- 甲第十五號 (二月九日)
(本文ハ長崎縣士族田中德太郎所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第十六號 (二月九日)

十六年第十五號布達ニ依リ消滅

- 甲第十七號 (二月十三日)
(本文ハ廣島縣士族倭興一所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第十八號 (二月十三日)
(本文ハ島根縣下藤田甚六福岡縣士族野澤勝太郎東京府士族藤井治平外一名記名金祿公債證書紛失竝盜難ノ件略ス)
- 甲第十九號 (二月二十日)
(本文ハ山口縣士族原田方輔外一名所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第二十號 (二月二十一日 輪原附)
(本文ハ岐阜縣下橋本總助所有起業公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第二十一號 (二月二十六日)
山口縣下山口第百十國立銀行本店ノ儀今般同縣下長門國下ノ關城ノ腰三十一番地ニ移轉致シ度旨出願願屆候條此旨布達候事
- 甲第二十二號 (二月二十六日)
(本文ハ廣島縣士族松本彰所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第二十三號 (二月二十六日)
(本文ハ鹿兒島縣士族大寺彦太郎外三名記名金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第二十四號 (三月二日)
(本文ハ兵庫縣士族長谷川保次郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第二十五號 (三月二日)
(本文ハ廣島縣士族松本彰所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

明治十三年二月三月 大藏省 布達 甲第十七號 甲第十八號 甲第十九號 甲第二十號
甲第二十一號 甲第二十二號 甲第二十三號 甲第二十四號 甲第二十五號

九九一

○甲第二十六號 (三月二日)
(本文ハ秋田縣士族佐藤幸藏所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第二十七號 (三月四日)
(本文ハ千葉縣士族山路壽富所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第二十八號 (三月十日)
(本文ハ島根縣士族土岐頼亮所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第二十九號 (三月十日 輪廓附)
(本文ハ高知縣士族永野久義所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第三十號 (三月十二日)
(本文ハ東京府士族石川遠明所有秋祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第三十一號 (三月十二日)
(本文ハ長野縣士族黒河内修政所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第三十二號 (三月十三日 輪廓附)
米穀限月賣買ノ儀ハ明治九年第五百五號公布ノ趣有之該條例ニ遵ヒ會所ヲ設ケ營業候儀ハ其處ニ依リ許可相成候處右限月並ニ現場起ル現場ナリ買取引ハ米商會所内ニ限リ差評サレ候儀ニテ他ノ地方ニ會所ノ支社出張所ヲ取設ケ又ハ仲買人ノ分店代理人取次人等ヲ置候儀不相成ハ勿論渾テ會所外ニ於テハ仲買人タリ其業務取扱候儀一切不相成筋ニ候條心得違無之様可致此旨布達候事

○甲第三十三號 (三月十六日)
(本文ハ長崎縣士族田中徳太郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第三十四號 (三月十七日)
(本文ハ東京府下瀝美繁所有舊公債證書發見ノ件略ス)

○甲第三十五號 (三月十七日)
(本文ハ三重縣下山本峰松所有起業公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第三十六號 (三月十九日 輪廓附)
昨明治十二年十月甲第一百一號布達造幣局出張所地金受取方規則第四條中精製分析料ノ但書(右ハ都テ千分中雜物百分未滿ノモノトス云々)ヲ削除シ同條末行ハ左ノ通追加候條此旨布達候事

右各項ノ精製分析料ハ都テ千分中雜物百分未滿ノモノトス若シ雜物百分以上ヲ含有スル地金ハ右費用ノ外左ノ増手敷料ヲ受取リ貳百分以上ハ倍敷ヲ受取ルヘシ但雜物貳百五拾分以上ノ地金ハ精製ノ爲メ受取ラサルヘシ

其他金 純金拾チンスニ付 金三拾四錢九厘
所含ノ 純銀同斷 金貳錢貳厘

○甲第三十七號 (三月十九日)
(本文ハ愛媛縣士族古川金十郎所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第三十八號 (三月二十二日 輪廓附)
明治十三年三月當省甲第三十二號布達中(他ノ地方ニ)ノ五字刪除候條此旨布達候事

○甲第三十九號 (三月二十四日)
(本文ハ東京府士族遠藤常寬所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第四十號 (三月三十日)

二十年勅令第十一號ニ依リ消滅
甲第三十八號布達ヲ以テ文中刪除

十六年勅令第十五號布達ニ依リ消滅

二十年勅令第十一號ニ依リ甲第三十二號布達消滅

○甲第四十一號 (四月一日)
(本文ハ石川縣下吉田傳右衛門外一名所有金祿公債證書起業公債證書盜難竝ニ紛失ノ件略ス)

○甲第四十二號 (四月一日)
(本文ハ廣島縣下岡田新藏所有起業公債證書發見ノ件略ス)

○甲第四十三號 (四月一日)
(本文ハ秋田縣士族岸鶴治所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第四十四號 (四月五日)
(本文ハ東京府士族藤井治平所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第四十五號 (四月八日)
(本文ハ岐阜縣下橋本總助所有起業公債證書發見ノ件略ス)

○甲第四十六號 (四月十五日)
(本文ハ埼玉縣士族西川昌甫長崎縣士族松尾信章所有金祿公債證書紛失竝盜難ノ件略ス)

○甲第四十七號 (四月十六日 輪原附)
(本文ハ鹿兒島縣士族長野珠城長崎縣士族稻垣景外一名記名金祿公債證書盜難竝紛失ノ件略ス)

○甲第四十八號 (四月十七日)
(本文ハ大分縣士族水島文六所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第四十九號 (四月二十日)
(本文ハ鹿兒島縣士族栗屋市郎八所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

二十一年勅令第十一號ニ依リ米商會所成規消滅

○甲第五十號 (四月二十日)
(本文ハ東京府士族遠藤常寬所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第五十一號 (四月二十四日)
(本文ハ東京府士族島田政賀所有金祿公債證書被騙取ノ件略ス)

○甲第五十二號 (四月二十四日)
(本文ハ埼玉縣士族坪井多平治外四名記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第五十三號 (四月二十四日)
秩祿及ヒ新公債證書元金ノ義發行條例ノ旨趣ニ遵ヒ本年拂戻スヘキ秩祿公債ハ金額貳百三拾四萬七千百圓鐵ノ數三拾七本内五本ヲ當リ鐵ト定メ新公債ハ金額拾六萬四千圓鐵ノ數六拾九本内壹本ヲ當リ鐵ト定目今證書ノ所轄最高最多キ東京府へ本月廿三日主務ノ官員出張府下第一國立銀行ヲ始メ證書所持高巨額ナル者貳拾餘名ヲ選テ全國證書所持人ノ總代トシ一同ノ眼前ニ於テ抽籤施行候處鐵當リ左記ノ通(當籤番記號略ス)

右前書總代人ヨリ方法ノ公平正實ナルヲ保障ノ上確定候條此段可相心得就テハ此番號ノ證書所持ノ者ハ速ニ管廳へ可申出管廳於テハ該證書ノ番記號種類金高枚數トモ詳細調査シテ合計表ヲ製シ元金請取方往復ヲ除ノ外十日限當省へ可申出此旨布達候事

但本年分利子ノ儀ハ當四月迄拂渡スニ付年四分利月割計算シテ本文合計表へ組入差出スヘク此算則ハ明治十二年四月甲第四拾貳號布達ノ通壹人ニシテ數種鐵當リノ類ハ合計ヲ以利子ヲ算出匣位ニ止ムヘシ且又此布達管廳へ到達以後ハ鐵當リノ證書更ニ讓渡賣買停止候事

○甲第五十四號 (四月三十日)
(本文ハ千葉縣士族板倉勝行所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

明治十三年四月五月 大藏省 布達
甲第五十五號 甲第五十六號 甲第五十七號 甲第五十八號 甲第五十九號
甲第六十四號 甲第六十一號 甲第六十二號 甲第六十三號
九九六

- 甲第五十五號 (四月三十日)
(本文ハ山形縣士族長谷川吉郎治所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第五十六號 (四月三十日)
(本文ハ高知縣士族前田勝衛所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第五十七號 (四月三十日)
(本文ハ群馬縣士族金子勤悅所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第五十八號 (五月七日)
(本文ハ福岡縣士族市岡岩男所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第五十九號 (五月七日)
(本文ハ東京府士族伊賀氏理所有秩祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第六十號 (五月八日)
(本文ハ東京府士族島田政賀所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第六十一號 (五月八日)
(本文ハ千葉縣士族板倉勝行所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第六十二號 (五月十三日)
(本文ハ東京府士族澤田多美所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第六十三號 (五月十三日)
(本文ハ山口縣士族兼國慶藏所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第六十四號 (五月十九日)
(本文ハ東京府下長沼又兵衛所有秩祿公債證書紛失ノ件略ス)

十四年大藏省甲第
七十八號布達ニ依
リ消滅

- 甲第六十五號 (五月二十二日 輪廓附)
堺縣下大庭一番村第三百二十一國立銀行本店ノ備今般岐阜縣下美濃國厚見郡加納町二番地へ移轉致
度旨願出聞届候條此旨布達候事
- 甲第六十六號 (五月二十四日)
(本文ハ埼玉縣士族坪井多平治外三名秋田縣士族佐藤幸藏外一名所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第六十七號 (五月二十四日)
(本文ハ三重縣士族國田鈞作同縣下貝塚卯兵衛記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第六十八號 (五月二十六日)
(本文ハ東京府士族吉田倫理所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第六十九號 (五月二十六日)
(本文ハ大分縣士族水島文六所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第七十號 (五月三十一日)
(本文ハ長崎縣士族松尾信章記名金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第七十一號 (五月三十一日 輪廓附)
金祿公債證書ノ内五拾圓貳拾五圓拾圓等ノ證書多分所持致居候者ハ枚數相當ニ不便利ノ趣ニ相聞
候ニ付今般右三種ノ證書ニ限リ所持高集メテ五百圓ニ滿ツル分ハ五百圓證書ト交換差許候條志願
ノ者ハ明細書へ本證書相添管轄廳へ可願出尤手數料トシテ五百圓證書壹枚ニ付金拾壹錢宛上納可
致此旨布達候事
- 甲第七十二號 (六月四日)
但本文布達候ニ付テハ管轄廳於テ取扱方ハ明治九年七月當省甲第拾五號布達ノ通可相心得事

二十一年大藏省告
示第百六十六號ヲ
以テ手數料ヲ製
造致シテ改メ

乙第二十八號連二
十一年勅令第七十
三號參看

明治十三年五月六月 大藏省 布達
甲第六十五號 甲第六十六號 甲第六十七號 甲第六十八號
甲第六十九號 甲第七十號 甲第七十一號 甲第七十二號
九九七

- 甲第七十三號 (六月四日)
(本文ハ三重縣下貝塚卯兵衛所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第七十四號 (六月四日)
(本文ハ秋田縣士族子吉八十八長野縣士族栗林伴之助記名金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第七十五號 (六月四日)
(本文ハ第四十四國立銀行岩橋轡輔記名福岡縣士族熊井作太郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第七十六號 (六月七日)
(本文ハ愛知縣士族山田眞事山形縣士族荻野勝彬記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第七十七號 (六月八日)
(本文ハ岡田惇佑外一名所有起業公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第七十八號 (六月十日)
(本文ハ東京府士族伊賀氏理所有秩祿及金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第七十九號 (六月二十六日)
(本文ハ愛知縣士族山田眞事所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第八十號 (六月二十六日)
(本文ハ埼玉縣士族大井泰藏所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第八十一號 (六月二十六日)
(本文ハ福岡縣士族太田卯三太所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第八十二號 (六月二十六日)
(本文ハ長野縣士族栗林伴之助所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

- 甲第八十三號 (六月二十九日)
(本文ハ福島縣士族大野輝勝所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
 - 甲第八十四號 (七月七日)
(本文ハ高知縣士族澤邦吉所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
 - 甲第八十五號 (七月七日)
(本文ハ山形縣士族梅野傳之助所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
 - 甲第八十六號 (七月十日)
(本文ハ秋田縣士族黒澤美徳所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)
 - 甲第八十七號 (七月十三日)
(本文ハ山口縣士族大多和通輔記名舊公債證書發見ノ件略ス)
 - 甲第八十八號 (七月十六日)
(本文ハ山形縣士族木村忠長所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
 - 甲第八十九號 (八月三日)
(本文ハ廣島縣士族水野孝造記名秩祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 本年第三拾壹號公布備荒儲蓄補助金十三年度下半ク年分 明治十四年一月一日ヨリ六月三十日迄ヲ云フ 配付額別紙之通候條此旨布達候事 (別紙)
- 備荒儲蓄補助金配付高
- 一金五千九百九拾六圓
 - 一金八千三百六拾五圓
 - 一金六千三百七拾壹圓
- 東京府
京都府
大阪府

- 一金八千貳百三拾壹圓
- 一金貳萬貳千九拾四圓
- 一金壹萬三千九拾壹圓
- 一金壹萬七千八百九拾貳圓
- 一金壹萬五千五百貳拾四圓
- 一金壹萬三千八百六拾八圓
- 一金壹萬貳千七拾五圓
- 一金八千三百七拾五圓
- 一金八千貳百八拾三圓
- 一金壹萬六千四百五拾貳圓
- 一金壹萬五千六百九拾九圓
- 一金壹萬九千四百三拾六圓
- 一金壹萬貳千七百拾八圓
- 一金四千五百三拾六圓
- 一金壹萬四千六百六拾八圓
- 一金壹萬千五百八拾圓
- 一金壹萬七百九拾圓
- 一金六千四百六拾四圓
- 一金壹萬千貳百九圓
- 一金五千五百三拾圓

- 神奈川縣
- 兵庫縣
- 長崎縣
- 新潟縣
- 埼玉縣
- 千葉縣
- 茨城縣
- 群馬縣
- 栃木縣
- 塚縣
- 三重縣
- 愛知縣
- 靜岡縣
- 山梨縣
- 滋賀縣
- 岐阜縣
- 長野縣
- 宮城縣
- 福島縣
- 岩手縣

- 一金四千九百七拾八圓
- 一金九千貳百三圓
- 一金七千四百七拾圓
- 一金貳萬三千五百七拾八圓
- 一金壹萬三千七百五拾三圓
- 一金壹萬六千貳百七拾貳圓
- 一金壹萬四千拾三圓
- 一金六千四百拾六圓
- 一金八千四百五拾貳圓
- 一金六千五百九拾三圓
- 一金壹萬五千八百九拾壹圓
- 一金六千四百四拾六圓
- 一金壹萬五千四百八拾六圓
- 一金七千八百拾三圓
- 一金壹萬千貳百貳拾六圓
- 一金壹萬三千三百三拾三圓
- 計金四拾五萬圓

- 青森縣
- 山形縣
- 秋田縣
- 石川縣
- 島根縣
- 岡山縣
- 廣島縣
- 山口縣
- 和歌山縣
- 德島縣
- 愛媛縣
- 高知縣
- 福岡縣
- 大分縣
- 熊本縣
- 鹿兒島縣

外 金拾五萬圓

○甲第九十號 (八月四日)

中央儲蓄金 大藏省管掌之分

明治十三年八月九月 大蔵省 布達

甲第九十一號
甲第九十二號
甲第九十三號
甲第九十四號
甲第九十五號
甲第九十六號
甲第九十七號
甲第九十八號
甲第九十九號
甲第一百號

10011

(本文ハ長野縣士族伊藤盛太郎所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第九十一號 (八月十日)

(本文ハ愛媛縣士族池田奎三郎所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第九十二號 (八月十日)

(本文ハ山形縣士族木村忠長福島縣士族大野輝勝所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第九十三號 (八月十六日)

(本文ハ秋田縣士族柿崎政信所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第九十四號 (八月十六日)

(本文ハ島根縣士族落合正克所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第九十五號 (八月十六日)

(本文ハ石川縣士族西野金太郎鹿兒島縣士族徳永貞右衛門記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第九十六號 (八月十九日)

(本文ハ和歌山縣下山本小次郎茨城縣下鈴木五右衛門所有起業公債證書燒失ノ件略ス)

○甲第九十七號 (八月二十五日)

(本文ハ長崎縣士族小池忠綱所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第九十八號 (九月一日)

(本文ハ三重縣士族園田鈞作所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第九十九號 (九月一日)

(本文ハ京都府士族安田永親所有金祿公債證書被騙取ノ件略ス)

○甲第一百號 (九月三日)

(本文ハ島根縣下藤田甚六所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第一百一號 (九月八日)

(本文ハ愛媛縣士族中村トヨ所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第一百二號 (九月十三日 輪原附)

株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大坂ニ於テ一ヶ所宛ニ相限リ候旨明治十一年五月甲第十四號ヲ以テ及布達置候處詮議ノ次第有之横濱取引所ノ儀自今横濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式買賣差許候條爲心得此旨布達候事

○甲第一百三號 (九月十七日)

(本文ハ石川縣下豊川玄洲記名舊公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第一百四號 (九月十七日)

(本文ハ京都府下伊藤齊助所有舊公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第一百五號 (九月十八日)

(本文ハ大坂府下上島利兵衛記名秩祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第一百六號 (九月二十二日)

(本文ハ静岡縣士族三浦義備秋田縣士族永井茂政記名金祿公債證書紛失竝所在不分明ノ件略ス)

○甲第一百七號 (九月二十四日)

(本文ハ東京府下小野豊治所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第一百八號 (九月二十四日)

(本文ハ群馬縣下岡崎茂十郎三重縣下鈴木才兵衛所有京都府下見頭廓龍管保起業公債證書盜難竝紛失ノ件略ス)

明治十三年九月 大蔵省 布達
甲第一百一號
甲第一百二號
甲第一百三號
甲第一百四號
甲第一百五號

10011

二十年勅令第十一號

明治十三年九月十月 大藏省 布達
甲第百九號 甲第百十號 甲第百十一號 甲第百十二號
甲第百十三號 甲第百十四號 甲第百十五號 甲第百十六號
甲第百十七號 甲第百十八號

十六年大藏省第七十九號告示參看

○甲第百九號 (九月二十九日 輪原附)
福岡縣下福岡第十七國立銀行本店ノ備今般大坂府下西區土佐堀裏町四番地へ移轉致シ度旨願出聞届候條此旨布達候事

○甲第百十號 (十月一日)
(本文ハ鹿兒島縣士族大寺彦太郎外三名記名金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百十一號 (十月一日)
(本文ハ堺縣士族上田美濃三郎東京府下水田太郎吉記名金祿公債證書紛失竝盜難ノ件略ス)

○甲第百十二號 (十月八日)
(本文ハ東京府下水田太郎吉所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百十三號 (十月九日)
(本文ハ甲第四十六號布達中金祿公債證書番號正誤ノ件略ス)

○甲第百十四號 (十月九日)
(本文ハ東京府士族池田貞太郎同府下池田健作記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第百十五號 (十月十五日)
(本文ハ兵庫縣下橋本新右衛門所有起業公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第百十六號 (十月十八日)
(本文ハ東京府士族毛利文司所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第百十七號 (十月二十一日)
(本文ハ長崎縣士族江島源吉外三名記名金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百十八號 (十月二十五日)

十九年大藏省告示第四十二號參看

○甲第百十九號 (十月二十五日)
(本文ハ廣島縣士族水野孝造所有秩祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百二十號 (十月二十七日 輪原附)
東京府下日本橋區北新堀町第百十八國立銀行ノ備今般愛知縣下知多郡半田村第百三十六國立銀行へ合併來ル十一月一日ヨリ營業致度旨願出聞届候就テハ第百十八銀行ヨリ發行セシ處ノ紙幣ハ從前ノ通り通用セシメ右引換方等ノ備ハ第百三十六銀行本店ニ於テ爲取扱候條聊無疑念受授可致此旨布達候事

○甲第百二十一號 (十一月二日)
(本文ハ愛媛縣士族谷本孫六所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第百二十二號 (十一月二日)
(本文ハ三重縣下山本峰松愛媛縣下栗田與三郎所有起業公債證書發見竝紛失ノ件略ス)

○甲第百二十三號 (十一月二日 輪原附)
本年十月第四十七號布告改定金札引換公債條例ノ内第七條第十一條中受領證申請書ノ書式竝ニ紙幣納方ノ順序及ヒ從前發行セシ金札引換公債證書ノ引換手續等左ノ通相定候就テハ從前發行證書ノ所有主ハ本月三十日限右ニ準據シ引換方可申出此旨布達候事

第一條 改定金札引換公債條例第七條地方管廳ニ於テ紙幣ト願書トヲ受取リ本人ニ渡スヘキ受領證ハ第一號雛形ノ通り又金札引換公債證書申請書ハ第二號雛形ノ通りタルヘシ而シテ紙幣ヲ出納局出張所へ納メ候分ハ其預リ證書ト共ニ申請書ヲ國債局へ送附スヘシト雖モ當省中出納局へ紙幣ヲ納メ候分ハ紙幣竝ニ出納局宛ノ上納證書ト共ニ申請書ヲ國債局へ送附スルヲ得同局ニ於テ

十四年大藏省乙第五號參看

二十一年勅令第七十三號ニ依リ消滅

明治十三年十月十一月 大藏省 布達
甲第百十九號 甲第百二十號 甲第百二十一號
甲第百二十二號 甲第百二十三號

ハ右紙幣ヲ出納局預リ證書ト交換ノ手續ヲナスヘシ

第二條 同條例第十一條公債證書ト引換ヘタル受領證ノ裏面ニ本人ヲ記サシムル公債證書ノ受取書式ハ第三號離形ノ通りタルヘシ

第三條 從前發行セシ金札引換公債證書ヲ所有スルモノハ其公債證書竝ニ證書ノ金高種類枚數番記號及ヒ引換請願ノ旨ヲ記載シタル書面ト共ニ其地方管廳ヘ差出スヘシ管廳ニ於テハ該證書ノ預リ證書ヲ本人ヘ附與シタル上該證書竝ニ請願書トモ國債局ヘ送付シテ公債證書渡方ノ請求ヲ爲スヘシ

第四條 國債局ニ於テハ右書面ニ據リ其金高ニ應ジ相當ノ割合從前發行證書千圓券ハ五百圓券ヲ券取交セ引換ヲ以テ金高枚數ヲ定メ其姓名管轄宿所族籍ヲ簿冊ニ登記シタル上其證書ヲ各債主ノ地方管廳ヘ送達スヘシ

第五條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ名面及ヒ證書ノ金高種類枚數番記號ヲ公債掛ノ簿冊ニ登記シ證書ヘ債主ノ名面ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加ヘ本人ヘ最前渡置キタル預リ證ト引換ヘシ渡方ヲ爲スヘシ

第六條 從前發行ノ證書ニ對スル本年分ノ利金本年ニ至リ發行ノ分月割ハ是迄ノ通十二月一度ニ相渡シ來十四年ヨリ條例第五條ノ通り兩度ニ渡スヘシ

第一號離形 用紙西ノ内堅ニツ切

一紙幣何圓 内何圓札何枚

右ハ金札引換公債掛入金トシテ書面ノ金高請取候仍テ受領證相渡候也

年月日

何 縣府使 廳公債掛 何某印

何 縣府使 町村 何某殿

第二號離形 用紙美濃紙

金札引換公債證書申請書

一紙幣何圓

何 縣府使 町村 何某納

但別紙出納局出張所預リ證書又ハ上納證書一葉添

右ハ金札引換公債掛入金トシテ書面ノ金高年月日相納受領證相渡候儀相違無之候條相當之公債證書御渡可有之候也

年月日

何 縣府使 長官 何某印

何 縣府使 知事 何某印

國債局長宛

第三號離形第一號受領證ノ裏面ニ書式ノ如ク記載押印ナシムルモノトス

表書紙幣金高ニ應シ金札引換公債證書左之通御渡被下正ニ受取申

年	何	何	何	何
月	至	至	至	至
日	何	何	何	何
發行	何	何	何	何
一金五百圓	何	何	何	何
一金百圓	何	何	何	何
一金五十圓	何	何	何	何
合金何圓	何	何	何	何
何枚	何	何	何	何
此金何圓	何	何	何	何
此金何圓	何	何	何	何
此金何圓	何	何	何	何
何番地	何	何	何	何
何ノ某印	何	何	何	何

- 甲第百二十四號 (十一月四日)
(本文ハ東京府下小野豐治所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百二十五號 (十一月九日)
(本文ハ石川縣士族西村丈夫所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百二十六號 (十一月九日)
(本文ハ三重縣士族大須賀利長外一名記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百二十七號 (十一月十一日 輪廻附)
起業公債證書記名ノ分銀當リノ節元金拂渡方左ノ通手續相定候條此旨布達候事

一 起業公債記名證書鐵當リノ分ハ其所有主ヨリ其(檢印ヲ受タル)管轄廳ヘ其證書ヲ差出シ其廳ニ於テハ其記名證書所有主タルコトヲ保認シテ當鐵ノ旨ヲ帳簿ヘ記入シ別ニ左ニ示ス離形ノ添書ヲ製シ其所有主ニ下付スヘシ

一 所有主ハ管轄廳ノ添書ト證書ト共ニ最寄該公債取扱店ヘ差出シ取扱店ハ其添書ヲ看認シテ無記名證書同様ノ手續ヲ以テ渡方ヲ爲スヘシ

添書離形

添書

起業公債記名證書

何圓 第何號 自何々番 何枚

右當縣下何國何郡何町何ノ誰所有ニ相違無之候也

何縣府

公債掛

明治何年何月何日

官 姓 名 印

- 甲第百二十八號 (十一月十二日)
(本文ハ京都府士族水島信近所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第百二十九號 (十一月二十六日)
(本文ハ鹿兒島縣士族隈本棟貫東京府士族鈴木鍾太郎外一名記名金祿公債證書紛失盜難竝被騙取ノ件略ス)

明治十三年十一月十二日 大藏省 布達
甲第百三十號 甲第百三十一號 甲第百三十二號 甲第百三十三號
甲第百三十四號 甲第百三十五號 甲第百三十六號 甲第百三十七號
甲第百三十八號 甲第百三十九號

- 甲第百三十號 (十一月二十六日)
(本文ハ東京府士族鹽谷正道所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百三十一號 (十一月一日)
(本文ハ甲第百二十九號布達正誤ノ件略ス)
- 甲第百三十二號 (十二月二日)
(本文ハ石川縣士族堀江親本鹿兒島縣士族濱川半介東京府士族藤田保壽長崎縣士族寺崎敬忠記名金祿公債證書紛失竝盜難等ノ件略ス)
- 甲第百三十三號 (十一月九日)
(本文ハ東京府士族池田亭太郎同府下池田健作記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百三十四號 (十二月十日)
(本文ハ東京府士族小出英保外一名岡山縣士族小倉高嘉記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百三十五號 (十二月十一日)
(本文ハ大分縣士族大島信久東京府士族野宮芳敬記名金祿公債證書盜難竝所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百三十六號 (十二月十一日)
(本文ハ京都府下太田平左衛門所有起業公債證書燒失ノ件略ス)
- 甲第百三十七號 (十二月十四日)
(本文ハ埼玉縣士族內田辰雄所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百三十八號 (十二月二十二日)
(本文ハ静岡縣士族內藤忠順所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百三十九號 (十二月二十四日)

(本文ハ福岡縣士族林龍藏所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)
○甲第百四十號 (十二月二十四日 輪原附)
山形縣下羽前國南村山郡山形第百四十國立銀行ノ義今般同縣下同國西田川郡鶴ヶ岡第六十七國立銀行ハ合併來明治十四年一月一日ヨリ營業イタゞ度旨願出聞届候就テハ第百四十國立銀行ヨリ發行セシ紙幣ハ從前ノ通令通用右引換方等ノ義ハ第六十七銀行本店ニ於テ爲取扱候條聊無疑念授受可致此旨布達候事
○甲第百四十一號 (十二月二十八日)
(本文ハ京都府下鬼頭廓龍管保起業公債證書發見ノ件略ス)

達

○乙第一號 (二月九日 輪原附) 府 縣
客歲十二月二十五號ヲ以テ各廳爲替方命令書案第拾壹條改正候旨御達相成候ニ付テハ各種公債證書抵當價格ノ儀ハ當分左ノ通相心得是迄取置候抵當ノ内公債證書ニ非サル分ハ其爲替方ハ相達シ引換期限爲取調本年二月十日ヲ限リ其旨可申立此段相達候事
但公債證書ヲ抵當トナシタル貸金證書ニ限リ該負債主ノ承諾證書ヲ添ヘ其抵當公債證書一同抵當ニ取置候義不苦候此ノ抵當價格ハ證書面ノ貸金高ニ不拘都テ公債證書ノ價格ニ因ルヘシ尤價格貸金高ヨリ高價ニ當ルルハ貸金高ヲ以積算スヘシ
抵當品價格
秩祿公債證書 百圓ニ付 實價 百圓
新公債證書 同 同 七拾圓

明治十三年十二月 大藏省 布達 甲第百四十號 甲第百四十一號
乙第一號

十五年大藏省第五
號達十六年同第
三十八號達參看

明治十三年一月 大藏省 達 乙第七號 (租稅科目書式)

1024

△何年度實收
△金

合計金

右者何年度稅外收入豫算書面之通有之候也

年 月 日

大藏卿 宛

長官名印

正 十七年大藏省第五
十八號達ヲ以テ廢

○乙第七號 (二月十七日 輪廓附)

府 縣

租稅科目別紙甲號ノ通相定豫算帳書式乙號ノ通改正候條十三年度ヨリ右ニ照準可取調此旨相達候事

(別紙)

△甲 號

(△印ハ朱登)

大 科 目	小 科 目
地 稅	田 地 稅
	畑 地 稅
	郡 村 宅 地 稅
	山 林 原 野 牧 場 稅
	市 街 地 稅
	地 券 監 印 稅
礦 山 稅	○

北 海 道 物 産 稅	○
酒 類 稅	釀 造 營 業 稅
	受 賣 營 業 稅
	釀 造 稅
煙 草 稅	營 業 稅
	印 紙 稅
證 券 印 紙 諸 稅	印 紙 稅
	界 紙 稅
	押 印 稅
郵 便 稅	切 手 賣 下 代
	外 國 郵 便 遞 送 料
	私 書 函 料
	爲 換 手 數 料
訴 訟 郵 紙 諸 稅	

明治十三年一月 大藏省 達 乙第七號 (租稅科目書式)

1025

訴訟用紙稅	○	船稅	車稅	諸會社稅
裁許用紙稅		蒸氣船稅	馬車稅	
文通用紙稅		西洋形風帆船稅	人力車稅	
		日本形船稅	牛車稅	
		靜漁船並海川小回船稅	荷車稅	
			米商會所稅	
			銀行稅	
			株式取引所稅	

乙 號

橫濱取引所稅	○	遊服稅	銃獵稅
		職獵稅	牛馬買賣免許稅
			賣藥稅
			度量衡稅
		營業稅	
		受賣鑑札料	
		尺度稅	
		樹量稅	
		權衡稅	
			版權免許料
			海外旅券其他免許手数料

(△印)朱書

地方稅豫算及精算順序

第一條 豫算ノ事

第一節 地方稅徵收及ヒ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算ヲ立ルハ明治十一年七月第十九號及ヒ同年十二月二十九號布告ニ基キ下節ノ順序ニ遵ヒ之ヲ調製シ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第二節 府知事縣令ハ每歲豫算報告ニ際シ其財計ノ大要如何ヲ辨知シ易カラシメシカ爲メ其申文中ヘ既往ノ成績ト將來ノ見込トヲ開陳スヘシ

第三節 該年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ對比シ多寡増減アルモノハ第一號書式ニ倣ヒ各科目ニ就キ稅目ノ取捨事業ノ興廢等詳細其事由ヲ説明スヘシ

第四節 該年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ每科目其多寡増減ヲ明瞭ニシ第二號書式ニ倣ヒ之カ比較表ヲ調製スヘシ

第五節 豫算金額ノ仕譯ハ第三號書式ニ倣ヒ收出貨額ヲ明別シテ各科目ヲ備載シ傍ラ前々年度ノ實額ヲ附記スヘシ

第六節 非常ノ費用及其賦課ノ豫算報告書ハ第五節ノ書式ニ準ヒ之ヲ調整シ詳カニ其要求ノ事項ヲ記載スヘシ

第七節 國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨スル費項ハ警察費(本分警務費トモ)但警費ノ外警部ニ屬シ諸料費與昂祭扶助療治料及河港道路堤防橋梁建築修繕費學校補助費(師範學校及小學校補助費)三種目ニ限ルヘシ

第八節 國庫下渡金ノ豫算ハ第三號書式ノ如ク地方稅ト共ニ之ヲ調整スヘシ

但國庫ヨリ下渡金ノ制限額ハ該年度豫算調製以前ニ於テ之ヲ達スヘシ

第九節 内務大藏兩卿ハ豫算報告ヲ得テ後三十日間(往復ヲ期シ)監査ハ學校補助費ニ係ル事項ヲ了

スルモノトス故ニ該日數ヲ經過スレハ承認ノモノタルヘシ

第十節 府縣屬ノ消費ニ關スルモノハ之ヲ其本廳ノ部ヘ編製シ各郡區役所ノ辨給ニ係ルモノハ都

テ其郡區役所ノ部ヘ編製スヘシ

第十一節 國庫下渡金ハ他ノ費項ヘ流用スルヲ許サス

第十二節 國庫下渡金ハ大藏省ヨリ交付スヘシ

但交付期程ハ從前ノ通

第十三節 地方費ハ其科目類集ニ倣ヒ之ヲ編製スヘシ

但該科目ハ一般ノ例則ヲ示スモノナレハ其費用ノ有無ニ應ジ之ヲ取捨スヘシ

第二條 精算ノ事

第一節 地方稅徵收及ヒ地方稅ヲ以テ支辨セシ經費ノ精算ハ明治十一年七月第十九號布告ニ基キ下

節ノ順序ニ遵ヒ之ヲ調製シ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第二節 府知事縣令ハ地方稅精算報告ニ際シ其財計ノ大要如何ヲ辨知シ易カラシメシカ爲メ其申

文中ヘ既往ノ成績ト將來ノ見込トヲ開陳スヘシ

第三節 該年度精算ヲ以テ其豫算ニ對シ又該年度精算ヲ以テ前年度精算ニ比シ第四第五第六號書

式ニ倣ヒ之カ比較表ヲ製シ其多寡増減アルモノハ各科目ニ就キ詳細之ヲ説明スヘシ

第四節 精算金額ノ仕譯ハ第七號書式ニ倣ヒ收出貨額ヲ明別シテ各科目ヲ列載シ傍ラ該年度豫算

額ヲ附記スヘシ

第五節 内務大藏兩卿ハ精算報告ヲ得テ後三十日間(往復ヲ期シ)監査ハ學校補助費ニ係ル事項ヲ了

スルモノトス故ニ該日數ヲ經過スレハ承認ノモノタルヘシ

第六節 該年度精算ニ至リ殘餘アリテ之ヲ翌年度ヘ繰越或ハ不足ヲ生シ之ヲ翌年度ヨリ補充スル

等ノコアルルハ第三節第四節ニ準ヰ之ヲ詳記スヘシ
 第七節 國庫下渡金ノ殘餘アラハ之ヲ翌年度該費項へ繰越充用スヘシ
 第八節 國庫ヨリ下渡ノ費項ハ大藏省派出検査員各府縣廳ニ就キ其出納ノ實況ヲ調査スヘシ
 第九節 大藏卿ハ國庫下渡金ニ對シタル決算證書ヲ交付スヘシ
 但翌年通常府縣會へ報告ノ後タルヘシ
 (別冊)

地方費科目類集

(各費中科目ノ同一ナルモノハ甲
ハ其細目ヲ詳記シ乙ハ之ヲ略ス)

(△印ハ朱書)

一 警察費

俸 給

巡查月給

備月給

警察本務ニ從事スル御用掛及備給料

給 與

諸備給

寫字生探索掛小使給醫員臨時備給評價人雇給諸職工賃管轄ノ為メ雇上ル諸職工ハ此部ニ編入セス 常用臨時

雇人足賃ノ類

諸賄料

宿直或ハ不寐番人等へ給與スル辨當料臨時備夫呼出證人拘留人護送囚人用宿預人責付

人等諸賄料

滿年賜金

巡查滿年賜金

勸勵賞與

巡查御用掛備等勸勵賞與

質與吊祭料

扶助療治料

被服費

帽上衣袴外套肌着靴等新調修復ノ諸費

雜 費

拘留人護送囚人等病氣ノ節藥餌料其他右ニ屬スル諸費

旅 費

巡查旅費

新任轉任免職其他各地派出ノ旅費滯留日當

諸備旅費

同上

證人無罪旅費

證人無罪解救人評價人等呼出旅費滯留日當

廳 費

需用費

胴占棒捕縛繩呼子笛椅子テーブル時計毛巾火鉢書箱等ノ備付品及筆硯墨紙薪炭油蠟燭

等消耗品買上代

運送費

現金遞送及爲換手數料物品運送費其他海陸運搬ニ屬スル一切ノ諸費

郵便電信

郵便稅及電信料其他郵便爲換料

雜費

借家料ノ類

厩費

諸備給

馭者馬丁刈毛人給其他雇人足賃

需用費

馬具並厩付雜具新調修消耗品薪炭油馬飼用大豆藜糠ノ類其他馬藥等ノ諸費

馬買上

營繕費

某警察署新營費

地所寢家購入ノ諸費モ茲ニ編入ス

某警察署修繕費

巡查宿代 (本費ハ東京府ニ限ル)

消防費 (同上)

諸備給

火災消防備人足賃

諸賄料

需用費

雜費

一河港道路堤防橋梁建築修繕費

治水費

某川堤防修繕費

某川浚費

某港灣修繕費

(樋管汰除等修理ノ諸費此例ニ倣ヒ分類蒐集スヘシ)

道路修築費

某道築造費

某道修繕費

橋梁修築費

某橋建築費

某橋修繕費

並木植繼費

里程標建設諸費

一府(縣)會議諸費

俸給

書記給料

給與

諸備給

小使給其他備人足賃

諸賄料

宿直其他賄料

旅費

議員旅費

議長以下各議員往復旅費滯留日當

廳費

需用費

書籍時計文筐椅子テーブル筆硯墨紙其他備付及消耗品買上代

印刷費

運送費

郵便電信

雜費

營繕費

會議場新營費

會議場修繕費

一流行病豫防費

給與

諸備給

惡疫其他傳染病流行ノ節臨時備檢疫委員並醫師ノ給料臨時備人足賃等ノ類

旅費

諸備旅費

檢疫委員並醫師等ノ旅費滯留日當

廳費

需用費

運送費

郵便電信

消毒藥諸費

一般健康ニ關スル市街路傍ノ便所並芥棄場等へ用ル消毒藥購入諸費

避病院費

諸備給

看護人其他排泄物並病毒ニ汚染シタル物品等取扱備人足賃

需用費

諸器械藥品其他消耗品買上代

雜費

借家料等ノ類

新營(修繕)費

避病院新營及修繕ニ關スル諸費

一府(縣)立學校費及小學校補助費

某學校

- 衛生費
- 俸給
- 校長月給
- 教員月給
- 備月給
- 書記會計掛等諸備給
- 給與
- 諸備給
- 門衛小使給其他常用臨時傭人足賃
- 恩賞
- 職務勸勵賞與其他恩賜金
- 諸附料
- 旅費
- 校長旅費
- 教員旅費
- 諸備旅費
- 校費

- 需用費
- 運送費
- 郵便電信
- 雜費
- 生徒費
- 學資
- 需用費
- 筆硯墨紙ペン鉛筆西洋紙ノ類
- 諸附料
- 生徒賄料
- 旅費
- 生徒公事ニ付各地出行旅費滯留日當
- 被服費
- 生徒衣服買上等ノ類
- 外國人諸費
- 備月給
- 旅費
- 恩賞
- 宿料
- 營繕費

某學校新營費
 某學校修繕費
 某區學校
 (科目ノ前例ニ倣フ)
 教育會議諸費
 諸備給
 旅費
 需用費
 雜費
 臨時試驗費
 賞與
 府縣官等各小學校臨時試驗ノ節賞與
 小學校補助費
 某小學校
 某町村
 一郡(區)廳舍建築修繕費
 某郡(區)廳舍新營費
 某郡(區)廳舍修繕費
 一郡(區)吏員給料旅費及廳中諸費
 某郡(區)役所

給料
 郡(區)長月給
 郡(區)書記月給
 給與
 諸備給
 筆生給仕小使其他爲換方給料常用臨時雇人足賃等ノ類
 恩賞
 郡(區)長及郡(區)書記ニ給與スル職務勲賞與其他恩賜金
 諸賄料
 旅費
 郡(區)長旅費
 郡(區)長職務上^{通常委任特任}各地出行旅費滯留日常
 郡(區)書記其他旅費
 郡(區)書記其他諸備同上
 廳費
 需用費
 書籍時計文筐椅子テーブル筆硯墨紙其他備付及消耗品買上代^{特ニ委任ノ條件ニ係ル}役
 運送費
 現金運送及爲換料其他諸物品運送ニ關スル人足賃^{縣廳ニ願何届及戸長或ハ人民等へ布告}
 包含ス車馬船雇料等ノ類

郵便電信

郵便稅及電信料其他郵便爲換質等ノ類縣廳其他戶長人民等へ送及傳入スル郵便稅並電信料皆茲ニ編入ス

雜費

一病院及教育所諸費

某病院

俸給

院長月給

備月給

治療掛製藥掛其他諸備給料

給與

諸備給

看病夫小使給患者衣服洗濯夫其他備人足賃

諸賄料

恩賞

旅費

院長旅費

諸備旅費

用需費

備付消耗品買上

運送費

郵便電信

解剖費

解剖體持送人足賃解剖所小使給解剖體埋葬費其他右ニ要スル諸費

雜費

患者費

需用費

治療用品晒木綿金藥種類其他患者ニ要スル諸需用品買上代

諸賄料

患者賄其他食物買上代

外國人諸費

備月給

旅費

恩賞

宿料

營繕費

某病院新營費

某病院修繕費

某教育所

教育人諸賄 △本費ハ用需費ノ次ニ列ス

教育人賄料

被服費

衣服臥具等新調修復ノ諸費

雜費

浴湯等ノ諸雜費

(餘ハ皆病院科目ニ倣ヒ詳明臚列スヘシ)

一 浦役場及難破船諸費

給與

諸備給

難破船取扱中浦役人ノ日給其他救助人溺死シタル時其搜索人足賃等ノ類 八年第六十號 布告内閣

難破及漂流物取扱規則第十二條ニヨリ課出ノ分以下首倣之

患者費

救助人死傷スルハ治療埋葬ノ諸費

用需費

消耗品買上

難破船取扱ノ爲メ費消シタル新炭油蠟燭及筆硯墨紙買上代

郵便電信

浦方ヨリ管轄其外へ發シタル郵便稅及電信料

一 管内限リ諸達書及揭示諸費

布達類諸費

布達類印刷費

府縣限リ布達官省布告布達摺摺府縣報知指令月報府縣廳布達全書日誌其他諸報告類印

刷ノ諸費

揭示諸費

某所揭示場新營費

郡區役所外へ設置ノ揭示場新營ノ諸費

某所揭示場修繕費

同上修繕ノ諸費

一 勸業費

給與

諸備給

農工業教師其他勸業ニ關スル諸備給

諸賄料

旅費

諸備旅費

用需費

備付消耗品買上

運送費

郵便電信

雜費

試驗費

需用費
 農工業ニ關スル器械並消耗品購入代
 栽培費
 木草栽培ノ諸費
 牧畜費
 牛馬羊飼養ノ諸費
 (以下此例ニ倣ヒ各其事業ニ應ジ之ヲ列載スヘシ)
 營繕費
 某所新營費
 某所修繕費
 一戸長以下給料及戸長職務取扱諸費
 給料
 戸長給料
 備給料
 用掛筆生手傳人等ノ給料
 給與
 諸備給
 常用臨時備人足賃等ノ類
 諸賄料
 旅費

戸長旅費
 諸備旅費
 用掛筆生手傳人等旅費滞留日當
 用需費
 備付消耗品買上
 運送費
 郵便電信
 雜費

(印ハ朱書)

明治 自何年 何年 七月 地方稅收出豫算報告書
 至何年 何年 六月
 何 府 縣

△第一號
 明治何年度地方稅收出豫算報告
 明治何年度地方稅豫算ハ若干圓ニシテ前年度豫算ニ對比シ其増加スル總額ハ若干圓ナリ依テ各科
 目ニ就キ其増減事由ノ要領ヲ説明スル左ノ如シ
 増加ノ部

(何 稅)
 此豫算ノ員額ヲ以テ前年度ノ豫算ニ比シ若干圓ヲ増加セシハ某稅ノ如キ從前何々ニ付若干圓ヲ

徵收セシニ更ニ若干圓トシ爲メニ増加スルモノ若干圓余又某稅ハ從前姑ク之ヲ賦課セサリシニ一般ノ權衡ニ適シ難ク由テ本年度以降何々ニ付若干圓ヲ課スルヲ以テ之カ爲メ増加スルモノ若干圓併セテ此増加ヲ生ス

(何 稅) 此豫算ノ員額ヲ以テ前年度ノ豫算ニ比シ若干圓ヲ増加セシハ某稅ノ如キ從前何々ニ付若干圓ヲ徵收セシニ其課額多キニ過ル處アルヲ以テ本年度以降何々ニ付若干圓トシ爲メニ若干圓ヲ減少スト雖モ某稅ノ如キ云々ノ事故由テ詳記スニ由リ若干圓ヲ増加シ又某稅ハ漸次該業ノ進歩ニ由リ若干圓ヲ増加スルヲ以テ對比計算スレハ此増加ヲ生ス

(何 々)

(前例ニ倣ヒ増加ノ事由ヲ詳記スヘシ)

以上増加ノ通計金

減少ノ部

(何 稅)

(増加ノ部ニ倣ヒ其事由ヲ詳記スヘシ以下同シ)

(何 々)

以上減少ノ通計金

明治何年度地方費豫算ハ若干圓ニシテ前年度豫算ニ對比シ其増加スル總額ハ若干圓ナリ依テ各科目ニ就キ其増減事由ノ要領ヲ説明スル左ノ如シ

増加ノ部

(何 費)

(増加ヲ生セシ事由地方稅ノ部ニ准シ詳記スヘシ以下倣之)

(何 々)

以上増加ノ通計金

減少ノ部

(何 費)

(減少ノ事由増加ノ部ニ倣ヒ詳記スヘシ以下同シ)

(何 々)

以上減少ノ通計金

第二號

明治何年度地方稅收出豫算額ヲ以テ前年度豫算ニ對シ増減ヲ比較スルヲ左表ノ如シ

地方稅收出豫算比較表

科 目	收 入		比 較
	本年(度) 填記スヘシ	前年(度) 填記スヘシ	
地租五分一以内			増 減
營業稅			
雜稅			
戶數割			
國庫ヨリ下渡金			

科 目	支 出 ノ 部		比 較
	何 年 度	何 年 度	
差引超過(減少)	計		增 減
合 計			
警 察 費			
河津道路堤防橋梁建築 修繕費			
府 縣 合 議 諸 費			
流 行 病 豫 防 費			
府 縣 立 學 校 及 小 學 校 補助費			
郡 區 廳 舍 建 築 修 繕 費			
郡 區 吏 員 給 料 旅 費 及 臨 中 諸 費			
病 院 及 救 育 所 諸 費			
浦 役 場 及 雜 破 船 諸 費			
管 內 限 外 諸 達 傳 及 揭 示 諸 費			
勸 業 費			
月 長 以 下 給 料 及 月 長 限 外 諸 費			
差引超過(減少)			

右支出ノ内國庫下渡金ヲ要スル部分ノ仕譯ヲ掲グル左ノ如シ

科 目	地 方 稅		何 年 度	何 年 度	比 較
	下 渡 金	地 方 稅			
警 察 費					
河津道路堤防橋梁建築 修繕費					
府 縣 立 學 校 補助及小學校					
合 計					

第三號

明治何年度地方稅收出豫算額ノ仕譯左ノ如シ

收入ノ部

何區役所

△前々年度金 △(前々年度ノ實收)
一 金 (ナ掲ク以下微之)

地租五分一以内
額但明治何ノ年地租豫算
額若干四ノ何分ノ一

内金	地方稅
△金	國庫ヨリ下渡金
△金	何 費

(以下每費項ヲ區分列載スヘシ)

出收比較過不足ナシ

(△印ハ朱書)

明治 自何年七月 地方稅收出精算報告書
 至何年六月 何 府 縣

△第四號

明治何年度地方稅收出精算報告

明治何年度地方稅精算ハ若干圓ニシテ其豫算ニ對シ増加スル總額ハ若干圓ナリ又前年度精算ニ比シ其減少スル總額ハ若干圓ナリ依テ各科目ニ就キ其増減事由ノ要領ヲ説明スル左ノ如シ

増加ノ部 (本部ハ該年度精算ニ對シ増加セシモノヲ指出スヘシ前年度精算ニ對シテハ増減ニ拘ラス科目ノ順次ニ從ヒ併述スヘシ減少ノ部モ亦同シ)

(何稅)

此精算ノ員額ヲ以テ豫算ニ比シ若干圓ヲ増加セシハ云々

(増加セシ事由概テ豫算ノ例ニ準シ詳記スヘシ以下倣之)

又精算ノ員額ヲ以テ前年度精算ニ比シ若干圓ノ増加セシハ云々(増減ノ事由ヲ詳述スヘシ以下倣之)

(前年度精算ニ比シ増減ヲ生セシ事由ノミヲ記載スヘシ其以前ノ分ハ別ニ之ヲ説明ヲ要セス以下倣テ同シ)

(何々)

(前例ニ倣ヒ一科目限リ詳記スヘシ)

(前年度ヨリ繰越高)

此員額ハ若干圓ニシテ成規ノ如ク繰越高ナキニ編入ス即チ地方稅部分ニテ若干圓國庫ヨリ下渡金ノ部分ニテ若干圓ナリ

(翌年度ヨリ補充高)

此員額ハ若干圓ニシテ本年度實費ノ其收額ニ超過セシ高ナリ依テ之ヲ翌年度ヨリ補充ス以上該年度精算額ヲ以テ豫算ニ比シ

増加ノ通計金

減少ノ部

(何稅)

此精算ノ員額ヲ以テ豫算ニ比シ若干圓ヲ減少セシハ云々

(減少セシ事由増加ノ部ニ準シ詳記スヘシ以下倣之)

又精算ノ員額ヲ以テ前年度精算ニ比シ若干圓ノ増加セシハ云々(増減ノ事由ヲ詳述スヘシ以下倣之)

(何々)

(前例ニ倣ヒ一科目限リ詳記スヘシ)

以上該年度精算額ヲ以テ豫算ニ比シ

減少ノ通計金

(國庫ヨリ下渡金)

此精算額ハ若干圓ニシテ即チ豫算額ニ同シ
明治何年度地方費精算ハ若干圓ニシテ其豫算ニ對シ増加スル總額ハ若干圓ナリ又前年度精算ニ比シ其減少スル總額ハ若干圓ナリ依テ各科目ニ就キ其増減事由ノ要領ヲ説明スル左ノ如シ

増加ノ部 (本部ハ該年度豫算ニ對シ増加セシモノヲ掲出目ノ順次ニ從ヒ併述スヘシ減少ノ部モ亦同シ)

(何費)

此精算ノ員額ヲ以テ豫算ニ比シ若干圓ヲ増加セシハ云々

(増加セシ事由ハ概テ豫算ノ例ニ倣ヒ詳記スヘシ以下倣之)

又精算ノ員額ヲ以テ前年度精算ニ比シ若干圓ヲ減少セシハ云々 (増減ノ事由ヲ詳述)

(何々)

(前例ニ倣ヒ一費項限リ詳記スヘシ)

以上該年度精算額ヲ以テ豫算ニ比シ

増加ノ通計金

減少ノ部

(何費)

此精算ノ員額ヲ以テ豫算ニ比シ若干圓ヲ減少セシハ云々

(減少セシ事由ハ増加ノ部ニ準テ詳記スヘシ以下倣之)

又精算ノ員額ヲ以テ前年度精算ニ比シ若干圓ヲ増加セシハ云々 (増減ノ事由ヲ詳述)

(何々)

(前例ニ倣ヒ一費項限リ詳記スヘシ)

以上該年度精算ノ員額ヲ以テ豫算ニ比シ減少ノ通計金

明治何年度地方稅收出精算額ヲ以テ其豫算ニ對比シ増減ヲ比較スルノ左表ノ如シ

第五號

地方稅收出精算比較表

科 目	收入ノ部		支出ノ部		増比	數
	精算	高	精算	高		
地租五分一以内						
營業稅						
雜種稅						
戶數別						
國庫ヨリ下渡金						
計						
前年度ヨリ						
繰越高						
國庫ヨリ下渡金						
計						
翌年度ヨリ補充高						
合 計						

右支出ノ内國庫下渡金ヲ要スル部分ノ仕譯ヲ掲ル左ノ如シ

科	目	精算高		豫算高	増比	減
		計	下渡金			
警察費						
河港道路堤防橋梁建築修繕費						
府縣會議諸費						
何費						
何費						
計						
前年度へ補充高						
亞年度へ						
繰越高						
合計						

明治何年度地方稅收出精算額ヲ以テ前二ヶ年度精算ニ對比シ増減ヲ比較スルノ左表ノ如シ
 △第六號

地方稅收出精算額累年比較表
 (十二年度ハ十一年度實額ノミヲ比較シ爾後年度ヲ逐テ三ヶ年度度ツ、表出スヘシ)

科	目	精算高		豫算高	増比	減
		計	下渡金			
府縣立學校補助費						
地方稅						
國庫ヨリ						
合計						

書籍類 雜品

一 概目中其區分疑似ニ涉ルモノハ各廳ニ於テ其目的ニ應ジ適宜之ヲ編入スヘシ
一 概目中適當ノ科目ナキモノハ雜品中へ編入シ一種類ニシテ多數ヲ要スルモノハ別ニ一科目ヲ設
ルモノトス

明治何年度

外國品購求見積書

某官省院使局府縣

(△印ハ朱書)

常用(臨時用)ノ部

△日常需用ニ係ルモノハ之ヲ常用ヘ一時需用ニ屬
スルモノトス

器械類

何年何月用

某國(某國某製造所)ノ製造品

△(國或ハ製造所ヲ限ルモノ、例)

一何器械

若干

何々若干丈尺寸

△是ハ要點一部ヲ示シ餘ハ推知シ得ルモノ例ヲ掲ク此他各部ヲ示サ、
數量尺度等ハ括弧内或ハ容量力等アルモノ稱呼ヲ要スルモノハ細註
ヲ以テ之ヲ排記スルモノトス以下皆同シ

第何號繪圖(雛形見本等)

△繪圖雛形等ヲ要スルモノハ各號ヲ付シテ其兩個ヲ添ヘ本行ノ如ク記載

凡替代價金若干

此洋銀(英貨)若干

但壹疊若干
圓何錢ノ積

内

金若干

原價

金若干

雜費

△金貨ニ定限アルモノハ凡成ニ代ルニ定限ノ二字ヲ以テスヘシ但書ハ數疊ヲ
要スル分ニ限ル雜費ハ運搬費海關稅保險料等ヲ集計セシ員額ヲ掲クヘシ

領受場所某所
△是ハ物品到着ノ節大藏省ヨリ領受スヘキ場所ヲ掲クヘシ

一何器械

若干

△書式前例ニ倣フ

金具類

一何々

若干

何々若干尺寸

△餘ハ器械類ノ部ニ同シ

一何々

若干

何々

△總テ前例ニ倣フ

右ハ明治何年度中外國品注文見積書面之通ニ有之候也

年 月 日

大藏 卿 宛

長官名印

十四年大藏省乙第
八號達ヲ以テ廢止

○乙第十一號 (二月二十七日 輪原附)

諸貸下金返納取立高收稅委員へ送附ノ儀ニ付明治十二年九月乙第三拾六號ヲ以テ相達置候返納
金仕譯書ノ儀ハ別紙離形ノ通取調收稅委員へ送附可致此旨相達候事

但明治八年十二月乙第六拾三號ヲ以テ相達候離形ハ取消候事

(別紙)

(△印ハ朱書)

△貸下金返納仕譯書離形 △用紙美濃界紙

何々貸下金(救助勸業貸下)(石高割貸下)(宮方及舊藩々貸下)年號何年分各年度
下高割々外國債追徴貸下(四座各通タルハ)年號何年分各年度
ルハ返納金仕譯書

一合金何程

年號何年分

內

金何程

金何程

此譯

金何程

何國何郡何町何村何ノ誰歟何會社歟何々拜借高金何程何年ヨリ
何年マテ何箇年賦政ハ何年七月ヨリ何年六月マテ何箇年賦ノ分
石高割貸下金ノ内規則外ノ年賦ニシテ貸下ノ人別毎株ニ記スヘ
キモノハ右ニ準テ十三箇年間々々登割宛上納ノ内分ハ別毎株ニ記スヘ
分ヨリ記スヘマテ十三箇年間々々登割宛上納ノ内分ハ別毎株ニ記スヘ

宮方及舊藩々貸下金ハ處分番號ノミヲ記シ宮號並舊藩名ヲ用書
ニ記スヘ

登箇年分賦金高ノ内幾分賦内納ノ節ハ登箇年ノ賦金高並殘未納高トモ但書ニ記シ殘金
但納ノ節ハ登箇年ノ賦金高及既納金額是亦但書ニ記スヘシ尤モ既納金ハ登ニ納附濟ノ年
月日ヲ記入スヘキ

金何程

同上拜借高何程ニ係ル何年何月ヨリ何年何月マテ何箇年或ハ何
箇月分年何割或ハ月何歩ノ割合金ノ分

但内納又ハ殘金納等ノ節ハ元金但書ニ準シ既納未納ノ金額ヲ記スヘキ

金何程

舊何藩

外金何程

第何號

但殘金何程一時上納ニ付殘年季何箇年分何年何月取立ニ依テ何年或ハ率ヲ以テ利引如此

是ハ舊藩々貸下金ノ内利引一時返納書式

右書面之通取立返納候也

年號何年何月何日

國債局長姓名宛

各廳長官姓名印

○乙第十二號 (二月二十七日)

府 縣

地方官ニ於テ銀行檢査ノ爲メ官員ヲ派遣候節ハ自今必ス其廳ノ命令書ヲ付與シ若シ銀行ヨリ之カ
視閲ヲ請ヒ候節ハ無異議相示シ候様可致此旨相達候事

但東京府ハ此限ニ非ス

明治十三年二月 大藏省 達 乙第十二號

一〇七七

乙第二十七號達參
七十四年大政官第
七十二號達ニ依リ
消滅

○乙第十三號 (二月二十七日 檢附)
明治十一年二月當省乙第五號達經費並稅外收入金勘定帳書式中客歲月十二第五拾號公達ニ照準十三
年度ヨリ更正別紙ノ通調整可致此旨相達候事

(別紙)

一 經費勘定帳

經費科目表大科目限リ別冊ヲ以編製スヘシ但表紙ニ大科目

從前書式中元請仕拂殘高共三費定額常費
臨時外常費區分及雜部ヲ廢スヘシ

仕拂高ノ内

舊三費ノ位置ニ

改正中科目ヲ掲ク

但年度後支出アルキハ雜件改正小
科目ニ編入シ事由ヲ細科目トシテ掲クヘシ

一 稅外收入金勘定帳

客歲六月當省乙豫算並決算順序中細目掲載スルヲ廢シ本年一月當省乙第六號達豫算帳備考ニ照準スヘシ

第三拾號達

大科目ノ位置ニ

從前ニ異ルナシ

改正小科目ヲ掲ク

但決算後戻入金並年度後追納アルキハ雜入ニ編入シ事由ヲ小科目トシテ掲クヘシ

○乙第十四號 (三月二日 檢附 內務部達)

明治八年第四拾八號公達陸軍武官傷痍扶助等ノ概則御發行以前ニ係ル平常屯營ノ下士兵卒傷痍ノ
者終身扶助米壹人口又代支給期節等ノ儀從前各廳ノ慣例ニ因リ或ハ區區ニ涉リ候向モ有之候處自

府 縣

乙第二十五號達參

今右四拾八號概則第二條ニ照準シ毎年六月十二月兩度ニ割合某年一月ヨリ六月迄ノ分ヲ其
二月ニ支給候儀ト可心得此旨相達候事
取來子 支給候儀ト可心得此旨相達候事
但各廳ノ稟議ニ仍リ既ニ指令セシモノト雖モ本文ニ抵觸スルアラハ更正ノ儀ト可心得且該費ハ
現今勘定帳編成方軍入恩給ノ科目ニ編入スト雖モ來十三年度以降ニ於テハ十二年十二第五拾號
公達所屬科目表所屬中恩賜費小科ノ死傷手當細科ニ編入可致候事

(別冊)

大藏省精算局取扱事務

一 歲入出豫算表ヲ調理スル事

一 歲入出ヲ追調スル事

一 支出金ヲ交付スル事

一 金穀出納ノ傳票ヲ檢閱スル事

一 準備金運轉上ノ出納ヲ檢閱スル事

一 官有財産ノ計算ヲ調理スル事

一 地方稅ノ出入計算ヲ調理スル事

一 出納ノ現計表ヲ整理スル事

一 收入支出金ノ計算報告表ヲ調製スル事

以上ノ條件ハ是迄大藏省檢査局ニテ履行セル成規定例ニ依リ處辨シ其疑義ニ涉ル條件ハ其都度伺
出ツヘシ

十五年大藏省第一號達
七號布告ニ依リ消滅

十六年大藏省第四十一號達

二十年勅令第十一號ニ依リ消滅

太政官第六十號達
參看十九年勅令第二號ニ依リ消滅
十五年大藏省第七號達ニ依リ消滅

十四年大藏省乙第二十七號達ニ依リ消滅

○乙第十六號 (三月十一日 輪原附)

山林原野等ノ土地開墾ニ據リ地租改正前繳下年季付與ノ分前約年季中ハ無稅據置ノ處爾後該地季明ニ際シ未タ熟地ニイタルス尙繼年季ヲ請求スルモノハ其年季付與ノ年ヨリ近傍類地ニ比較シ素地相當ノ地價ヲ定メ年季中ハ原地目ニ據リ課稅候儀ト可相心得此旨相達候事

府 縣

○乙第十七號 (四月十三日 輪原附)

民有ノ地ヲ買上宜有地トシ或ハ道路堤塘河川敷トナスニ際シ地租組替方內務省許可ノ分ハ爾後該地ニ對スル地租蠲除ノ儀委任候條處分ノ後事由ヲ詳記シ其時々可届出此旨相達候事

府 縣

○乙第十八號 (四月十六日 輪原附)

今般第貳拾壹號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ取締尙一層嚴重ニ可相立因テハ金銀米穀買賣取引ヲ爲ス業體ノ者竝ニ兩替店爲替店又ハ穀物問屋ノ類ハ時々主務ノ官吏ヲ派遣シ篤ト爲相改自然右公布ニ違反候者ハ速ニ取糾シ裁判所ニ求刑可致此旨相達候事

府 縣

○乙第十九號 (五月六日)

明治十年當省乙第貳拾三號ヲ以地租徵收仕譯書差出方相達置候處本年ヨリ差出ニ不及候此旨相達候事

府 縣

○乙第二十號 (五月八日 輪原附)

今般當省中銀行課ヲ廢シ更ニ銀行局ヲ置キ國債局ノ次ニ列シ候條此旨相達候事

府 縣

○乙第二十一號 (五月十四日 輪原附)

明治十一年四月當省乙第貳拾號達荒地起返屆書式租稅局長宛ニ候處爾後大藏卿名宛ニテ可差出此旨相達候事

府 縣

○乙第二十二號 (五月二十九日 輪原附)

諸貸下返納金納方順序ノ儀十二年乙第三拾六號ヲ以相達候處右ハ收稅委員宛納證ヲモ相添委員ハ及送付候儀ト可相心得此旨相達候事

府 縣

○乙第二十三號 (六月十一日 輪原附)

船商船艇等車ハ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シタルルハ新調ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ稅金徵收候儀ト可相心得此旨相達候事

府 縣

○乙第二十四號 (六月十九日 輪原附)

稅外收入及ヒ諸返納金等國稅金領收順序ニ準據納方可取計旨客歲乙第貳拾六號ヲ以テ相達候處稅外收入ノ儀郡區役所ニ取立タル金額ハ預ク書ヲ作リテ當省爲替方ニ相預ク預リノ證印ヲナサシメ而シテ右預リ證書ハ郡區長ヨリ府縣廳ニ爲差出府縣廳於テ該證書ニ別紙ノ通仕譯書及ヒ上納證相添收稅委員ニ送付可致此旨相達候事

府 縣

(別紙)

何年度稅外收入金上納仕譯書

高金若干

內金若干

一金若干

外

金若干

金若干

未收入ニ付進テ上納可取計分

年月日納濟

或ハ年月日金何程ノ内ニ籠リ納濟

何々ノ事故ニ據リ取消ノ儀

年月日內務省何届濟ノ分

今般上納額

明治十三年六月 大藏省 達 乙第二十三號 乙第二十四號

内譯

金若干

但何國何郡何村森林地及ヒ立木竹或ハ枯損木等拂下代年月日内務省伺届濟

高金若干

金若干

外

金若干

未收入ニ付追テ上納可取計分

金若干

何年何月何日納濟

但何國何郡何村外何箇村地所拂下代或ハ何々拂下代何年ヨリ何年迄何年賦上納ノ内何年

分年月日内務省伺届濟

高金若干

内金若干

何々ニ據リ取消ノ義
年月日内務省伺届濟

金若干

但何國何郡何村官舎及ヒ土石木竹拂下代年月日前同斷

官有物貸下料及ヒ雜入ニ關スル收入金仕譯書モ此書式ニ倣ヒ各種類及ヒ内務省伺届濟ノ年

月日等明瞭登記スヘシ

右之通有之候也

年 月 日

某府 縣 印

府 縣

○乙第二十五號 (六月十九日 輪原附)
今般當省中精算局ノ儀調査局ト改稱シ商務局ノ次ニ列シ候條此旨相達候事

十九年勅令第二號
ニ依リ消滅

○乙第二十六號 (六月二十一日 輪原附)

十六年大藏省第五
十五號達三十二年
法律第三十二號ニ
依リ消滅

租稅未納ノ者公賣處分取扱方ノ儀明治十一年二月當省乙第七號ヲ以テ相達置候處左ノ箇條追加候
條此旨相達候事

一 公賣處分ハ納期後三十日ヲ過レハ其翌日ヨリ日數三十日以内ニ完了スヘキモノトス

一 若シ財產賣却代價不足ナル乎或ハ買請望人無之完納ノ場合ニ至ラサル分ハ處分濟ノ後日數十五

日以内ニ勘定拂ヲ申稟スヘシ

○乙第二十七號 (六月二十三日 輪原附)

府 縣

收入及經費受拂勘定帳並報告表其他證書式別紙模本ノ通改正候條受拂勘定帳ハ十二年度以後報告
表ハ本年四月以降差出シ領取證書ハ以來交換順序ヲ廢シ受取先ニ於テ保持シ勘定濟證書ハ每一箇
年度ニ可相渡候此旨相達候事

(別紙)

一 收入經費受拂勘定帳ハ其年度ニ關スル出納決算完結ノ日ヨリ五日間ヲ期トシ調成發出スヘシ

一 報告表ハ每三箇月間ノ出納計數ヲ調理シ每期ノ翌月五日ヲ期トシ其年度出納完結ニ至ル迄差出

スヘシ

一 同斷前期ニ於テ本收支濟ノ内下戻又ハ返納アルハ本期ニ於テ差繼クヘシ

一 同斷監獄費ノ内備工錢仕拂ノ其收入ヨリ超過スルハ從前ノ通大藏省受取金ヲ以テ一旦本拂ニ

立テ後期ニ於テ收入ノ過剩アレハ本拂ニ戻入ルヘシ

一 豫備金受拂報告ハ年度ニ拘ハラヌ每三箇月差出スヘシ

(別紙模本略ス)

○乙第二十八號 (七月三十一日 輪原附)

府 縣

明治三十三年六月七日 大藏省 達 乙第二十六號 乙第二十七號 乙第二十八號

乙第四十一號達

十四年大藏省第三
十三號達十六年大
藏省第二十七號達
ニ依リ消滅

十四年大藏省第五
十四號達ニ依リ消
滅

二十一年勅令第七
十三號大藏省告示
第百六十六號達

第四十號布告ニ依
リ酌減

本年當省甲第七拾壹號ヲ以金祿公債證書交換ノ義布達中右手數料ノ儀ハ每三箇月取廻其年度稅外
收入トシ納付可致此旨相達候事

○乙第二十九號 (八月七日 輪原附)

府 縣

明治八年當省乙第七拾六號達酒類稅則取扱心得書中第六條左ノ通更正候條此旨相達候事

第六條

一酒造桶類即今所持ノ分ハ勿論自今新調竝輪換減縮等ノ分共爲届出主任ノ官員調査ノ上其側面ハ
左ノ件々ヲ揭載致スヘキ事

番號

口徑何程

胴徑何程

底徑何程

深サ何程

石數何程

調査ノ年號月日

調査人官姓名

管廳燒印

但口頭ヨリ一寸ヲ減ス

酒造桶類丈量法

口徑口頭ヨリ一寸 胴徑口頭底徑底板面ハ孰レモ内測リニテ縱横チ \oplus 圖ノ如ク度リ此縱横徑
ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ定ム深サハ其桶ノ前立ノ箇所ニテ其背 孰レモ底板ヨリ口徑口頭ヨ
リ下リタ迄ノ間ヲ丈量シ此前後ノ尺度ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分數ニ止ム

同算則

口胴底ノ三徑ヲ各個自乘シ此三個ヲ和シ之レヲ三ニテ除キ以テ實トス之レニ深サ乘シ又圓積
率七八五ヲ乘シ而シテ枋法六四八ヲ以テ除キ其容量ヲ得ル

但石數ハ合數ニ止ム

每桶ハ揭載スヘキ番號ハ一家毎ニ起號シ桶數ニ應シテ其順號ヲ定ムヘシ

○乙第三十號 (八月七日)

府 縣

本年當省乙第貳拾九號ヲ以テ酒類稅則取扱心得書第六條更正ノ儀相達候ニ付テハ十三年度酒造檢
査ニ不差箇様決了スヘキ目途ヲ以テ酒造桶類容量積改定ニ着手可致此旨相達候事

○乙第三十一號 (九月二十五日 輪原附)

府 縣

金祿公債利子渡ノ季節ニ臨ミ利子渡前月ヘノ本年甲第七拾壹號布達ニ依リ五拾圓以下ノ證書五百
圓證書ト交換ノ儀出願ノ分ハ該季ノ利札所有者於テ切斷爲致候上交換可申出此旨相達事

但該季利金ハ切斷ノ利札ト引替可相渡儀ト可心得事

府 縣

○乙第三十二號 (九月二十七日 輪原附)

明治十年十二月十一日付番外地租改正事務局總裁連署ヲ以テ相達候地券稅帳及ヒ從前差出來候各
種稅帳其他附屬計算表ノ内左ノ通更正竝新設候條別冊雛形ノ通調製期限表ニ照シ該地可差立此旨
相達候事

稅表調理順序

一更正竝新設ノ表面ハ左ノ如シ

地稅表

明治十三年八月九月 大藏省 達 乙第三十號 乙第三十一號 乙第三十二號

一〇八五

十八年大藏省第七
十四號達ニ依リ消

十九年大藏省全第
二四號第二十一
號第七十三號參
看

十四年大藏省乙
五十一號達ヲ以テ
文中更正補十七
年同第五十六號達
ニ依リ地稅二表消

第四十號布告ニ依
リ酒類諸表消滅

十五年第六十三號
布告ニ依リ煙草諸
表消滅

十七年第十一號布
告ニ依リ證券諸表
消滅

十七年第五號布告
ニ依リ訴訟諸表消
滅

十六年第十三號布
告ニ依リ船稅諸表
消滅

十五年大藏省第五
十一號達ヲ以テ銃
稅表改正

地稅增減對照表

以上二表ハ年度ノ分界ヲ立テ今迄ニ差出サ、ル府縣ハ總テ更正スヘシト雖モ己ニ舊態
形ニ據リ稅帳編製ニ着手イタシ居候向ハ其儘差出苦シカラス

酒類釀造營業鑑札受拂計算表
酒類製造營業諸稅表
以上二表ハ十二年度ヨリ更正スヘシ

酒類釀造營業人員並石高表
煙草卸賣營業鑑札受拂計算表
煙草卸賣營業稅表
煙草印紙受拂計算表
煙草印紙稅表
證券印紙受拂計算表
證券印紙諸稅表
訴訟並文通用野紙受拂計算表
訴訟並文通用野紙稅表
船稅表
免稅船員數表
車稅表
國立銀行稅表
銃獵稅表

十四年大藏省乙第
三十五號達ヲ以テ
賣藥稅表更正

十四年大藏省乙第
五十一號達十六年
同第六十四號達ヲ
以テ文中加除改正

牛馬買賣免許鑑札稅表
賣藥受賣營業鑑札受拂計算表
賣藥稅表

以上十七表ハ十三年度ヨリ更正並新製スヘシ

一稅表地稅其及ヒ酒類釀造營業人員並石高表免稅船員數表ハ郡區役所所轄限雖形ニ倣ヒ之レヲ列
記シ末尾ニ府縣全管ノ總計ヲ掲ケ自餘各種ノ表面ハ府縣全管ノ總計ノヨリ舉クヘシ

但郡區ノ所轄多數ニテ紙返シニナルルハ①印アル標目ニ限リ其紙返シノ首位ヘモ標目掲舉ス
ヘキモノトス

一地稅表ノ地目ハ左ニ割註セル種類ヲ編入シ其他異稱ノモノハ類似ノ地目ニ編入スヘシ

田 不定田
畑 畑外畑 一毛畑 伐管畑
畑 不定畑 社地畑 境内
郡村宅地 準市街 社地 境内
市街宅地 社寺堂宇 敷地
鹽田 鹽池
溫泉 溫泉引入口
山林原野 竹林 登山 燻山 藪 芝草山 畑地 草生地
池沼 養魚地 砂地 牧場 秣場 堆地
雜地 物干場 網干場 布晒場
流木置場 土取場

一 地稅增減對照表ハ反別地價地稅前年ニ對シ增減アルモノヲ一括シ雖形ニ倣ヒ之レヲ製シ地稅表
一同差出スヘシ

五十四年大藏省乙第
五十一號
五十二年大藏省乙第
四十六號
正十四年大藏省乙第
八號

明治十三年九月 大藏省 達 乙第三十三號

但改正初年分ハ地租改正事務局へ同濟新舊稅額比較表一旦同濟ノ後誤認其他ノ増減ヲ生スル
シ以テ増減ヲ對照製表スヘシ
一諸印紙對紙受拂計算表中差引殘本廳有高ノ區へハ郡區役所ノ有高ヲ合算記入シ鑑札ハ該表差引
殘ノ區へ合算記入スヘシ
一釀造稅ノ如キ一人毎ノ稅額算出スヘキモノ該郡區合計石高ニ對スル稅額ニ比較シ過不足ヲ生ス
ルハ總テ其收稅スヘキ金額ヲ本行ニ立テ過金ハ(内若干寄過)不足ハ(外若干寄不足)ト腹書ス
ヘシ
一稅表ノ義ハ每期收入スヘキ稅額ヲ算定セルモノニテ皆濟帳ニ掲記スル未納稅金其他事故アリテ
勘定拂ニ立ル缺額ノ如キ現金計算上ニ屬スル整理トハ自カラ別種ノモノトス故ニ該處分未濟ノ
モノアルニ拘ハラズ每期ノ盡日ニ至レハ速ニ着手必期限通差出スヘシ
但從前諸稅帳へ勘定拂金額付箋致來候得共自今其儀ニ及ハス
一本年五月一日番外ヲ以相達候諸郡區總計表ノ内米商會所以下五種ヲ除キ今般改正ニ對スル各
種ノ總計表並船數增減仕譯帳ハ右改正ノ年度ヨリ差出スニ及ハス
(別冊稅表離形略ス)

稅表其他計表 縣地差立期限表

表名	期限
地稅表	全年分 翌年一月三十一日限
地稅增減對照表	全年分 十一月二十日限
酒類釀造營業人員並石高表	全年分 十一月二十日限

一〇八八

十四年大藏省乙第
八號
正十四年大藏省乙第
八號

明治十三年十月 大藏省 達 乙第三十三號

○乙第三十三號 (十月一日輪原附)
本年乙第貳拾七號ヲ以領取證書交換順序ヲ廢シ受取先ニ於テ保持可致旨相達候付テハ國債局負擔

種別	表名	期限
酒類	酒類釀造營業稅受拂計算表	全年分 翌年十月三十一日限
煙草	煙草小賣營業稅受拂計算表	七月ヨリ十二月マテ 一月廿五日限
煙草	煙草印紙受拂計算表	七月ヨリ十二月マテ 七月廿五日限
煙草	煙草印紙稅表	七月ヨリ十二月マテ 一月廿日限
證券	證券印紙受拂計算表	七月ヨリ十二月マテ 一月廿日限
證券	證券印紙稅表	七月ヨリ十二月マテ 七月廿日限
訴訟	訴訟並文通用紙受拂計算表	一月ヨリ六月マテ 七月廿日限
訴訟	訴訟並文通用紙稅表	一月ヨリ六月マテ 七月廿日限
船稅	船稅表 免稅船員數表共	七月ヨリ十二月マテ 一月三十一日限
車稅	車稅表	七月ヨリ十二月マテ 七月三十一日限
國立銀行稅	國立銀行稅表	七月ヨリ十二月マテ 七月三十一日限
鈔票稅	鈔票稅表	七月ヨリ十二月マテ 一月廿五日限
牛馬賣買免許證札稅	牛馬賣買免許證札稅表	七月ヨリ十二月マテ 一月廿五日限
賣藥稅	賣藥稅表	一月ヨリ六月マテ 七月廿五日限

一〇八九

ノ諸貸付返納金ニ對シ同局ヨリ相渡候領取證書ノ儀モ同様可相心得此旨相達候事

○乙第三十四號 (十月九日 輪廓附 地租改正事務局總裁連署)

府 縣

本年九月大藏省乙第三拾貳號ヲ以地券稅帳ヲ表式ニ更正ノ儀相達候ニ付テハ明治九年乙第四號同拾六號地租改正事務局達同年乙第九拾五號大藏省達同十年十二月十一日付番外地租改正事務局大藏省連署達ハ自今相廢止候條此旨相達候事

○乙第三十五號 (十月十五日 輪廓附)

府 縣

自轉車ノ儀各地取扱方區々相成居候趣相聞候處右ハ素ヨリ人力車部中ノモノニ付同様課稅可致儀ニ候條爲心得此旨相達候事

○乙第三十六號 (十月二十六日 輪廓附)

府 縣

銀行當坐預金小切手稅印押捺ノ儀ニ付別紙ノ通相定候條私立銀行へ可相達此旨相達候事

(別紙)

國立銀行

銀行當坐預金小切手稅印ノ儀來十四年一月一日ヨリ租稅局東京萬世橋出張所並大坂出張所於テ押捺候條此旨相達候事

(別紙)

國立銀行

當坐預金小切手ニ稅印押捺出願ノ者ハ左ノ通可相心得此旨相達候事

一 銀行當坐預金小切手ニ稅印押捺ヲ請フトキハ先ツ雛形ノ通ナル預ケ證書ニ稅金ヲ添ヘ大藏省爲換方大坂ハ駿河町三井銀行ニ差出シ右證書ニ稅金預リ濟ノ證印ヲ受ケ之レニ小切手牒ヲ添ヘ租稅局東京萬世橋出張所ニ差出スヘシ

十四年大藏省乙第十八號達ヲ以テ更正

十七年大藏省第七十五號告示ニ依リ消滅

十六年大藏省第五十四號達ヲ以テ廢止

十六年大藏省第二十三號達第四十一號達參看

二十年大藏省令第十五號ヲ以テ改定

小切手押印稅
一金 何 程

右現金何月何日大藏省爲換方何之誰へ相預ケ上納候也

年 月 日

何 銀 行 印

府 縣

○乙第三十七號 (十一月十日 輪廓附)
耕地ニ非ラサル民有地ヲ共葬墓地ニ撰定候分地租蠲除ノ儀自今委任候條事由ヲ具シ其時々可届出此旨相達候事

府 縣
沖繩縣
ヲ除ク

○乙第三十八號 (十一月二十二日 輪廓附 內務卿連署)
本年第三拾壹號ヲ以テ備荒儲蓄法公布相成候ニ付テハ右取扱順序別冊ノ通相定メ候條此旨相達候事

(別冊)

備荒儲蓄金取扱順序

第一條 備荒儲蓄金ハ毎年政府ヨリ配付スルモノヲ配付金ト稱シ人民ヨリ徵收スルモノヲ公儲金ト稱ス而シテ右配付金及ヒ公儲金ヲ合セテ府縣儲蓄金ト稱スヘシ

第二條 配付金ハ前年度ノ地租豫算高ニ據リ其額ヲ定メ以テ毎年三月以前ニ達スヘシ

第三條 府縣ニ於テハ配付金高ヲ以テ最下額トシ公儲金徵收ノ割合ヲ定メ而シテ其徵收期限ハ支出

明治十三年十一月 大藏省 達 乙第三十七號 乙第三十八號 (備荒儲蓄金取扱順序)

△內金	但云々
金何圓	何々
△內金	何 郡何々
金何圓	但云々
△內金	何々
	何 郡何々
	但云々
	何々
右ハ公儲金各郡區徵收高及上申候就テハ配付金御下付相成度候也	
年 月 日	府知事縣令印
△第二號	大藏 卿 宛
證	
一金何圓	
但何年度備荒儲蓄配付金	
右正ニ請取候也	
年 月 日	府知事縣令印
△第三號	大藏 卿 宛
備荒儲蓄金收支科目	

收入ノ部	
公儲金	
配付金	
中央補助金	
前年度缺額補充	
米穀賣却益金	
公債證書賣却益金	
公債證書利子	
預ケ金利子	
地租貸與返納金	
米穀賣却代	
公債證書賣却代	
雜 收	
支出ノ部	
火災救助	
食料	
小屋掛料	
農具料	
種穀料	
地租補助	
	△此科目ハ各科目ニ編輯スル能ハサルモノヲ編入ス
	(但風旱水震災等倣之)

地租貸與
米穀買入代
公債證書買入代
米穀賣却損金
公債證書賣却損金
藏歌料
藏番給
運送費
雜出

△第四號

用紙美濃野紙
表紙ハ白紙

内務大藏兩省ニ達
通ツ、差出スヘシ

明治何年度
何年何月何日
何月何日
備荒儲蓄金出納報告書
何府縣

一金
收入ノ部
公儲金

但何年何月何日附テ以テ公儲金郡區分ケ徵收高明細書合計
公儲金
但何々ノ理由ニ因リ徵收延期之分本月何日迄徵收ノ分
配付金
但何月何日大藏省ヨリ請取
中央補助金
但何々ノ理由ニヨリ儲蓄金三分ノ二以上供用支出候ニ付更ニ具狀ノ上何月何日大藏省ヨリ請取
米穀賣却益金
但米何千何百石賣却ノ節量出米賣却代及買入元價ニ對シ賣却價高價ニ付益金
公債證書賣却益金
但公債證書何千何百圓賣却ノ節買入元價ニ對シ賣却價高價ニ付益金
公債證書利子
但公債證書何千圓ニ對スル利子何月何日受入
地租貸與返納金
但何郡區何町村何ノ誰外何人へ地租貸與ノ分年賦又ハ月賦ヲ以テ返納ノ分則何年分返納
米穀賣却代
此米
但米穀賣却代受入壹石ニ付何程替
公債證書賣却代

此公債證書額面	雜 收
但公債證書額面百圓ニ付何程替	
但何々	
支出ノ部	
一金	
此譯	火災救助
金 内	食 料
但何郡區何町村火災ニ付一時焚出シ又ハ何拾人ハ何ケ日何拾人ハ何ケ日分食料	小屋掛料
但前同斷ニ付小屋掛料何軒分ハ壹軒ニ付何圓何軒分ハ壹軒ニ付何圓宛	農 具 料
但前同斷ニ付農具料何人ハ給與ノ分給額區分アルモノハ其譯ヲ詳	種 穀 料
但前同斷ニ付種穀料何人ハ給與ノ分	地租補助金
但前同斷ニ付何人ハ地租補助ノ分	

但前同斷ニ付何人ハ地租貸與ノ分	地租貸與金
(以下風旱水震災等之ニ做フ)	
但米何千何百石賣却ノ節元價ニ對シ賣却價下直ニ付損金若クハ缺減米ノ損失	米穀賣却損金
但公債證書賣却ノ節買入元價ニ對シ賣却價下直ニ付損金	公債證書賣却損金
但何所ニ於テ米穀貯積ニ係ル借庫敷料	藏 敷 料
但前同斷藏番給	藏 番 給
但米何程何地ヨリ何地ヘ回漕又ハ藏入藏出人足賃	運 送 費
此米	米穀買入代
但何地ニ於テ買入壹石ニ付何程替	公債證書買入代
此公債證書額面	
但何地ニ於テ買入代額面百圓ニ付何程替	雜 出

但何々

殘額ノ部

一金

内

金

金

此米

金

此米

金

此米

此公債證書額面
右何年何月ヨリ何年何月マテ
備荒儲蓄金出納相違無之因テ報告候也

現 米 公債證書
金 穀 書

府知事縣令印

内務 兩卿宛
大藏 兩卿宛

第五號

用紙美濃野紙
表紙ハ白紙野紙

内務大藏兩省へ
通ツ、差出スヘシ

明治何年度備荒儲蓄金總出納精算報告書

何府縣

明治何年七月ヨリ何年六月迄一週年間(但初年ハ一月) 備荒儲蓄金總出納精算別表ノ通相違無之候
因テ報告候也

年 月 日

内務 兩卿宛
大藏 兩卿宛

府知事縣令印

科 目	收 入 ノ 部		比 較
	本 年 度	前 年 度	
前年度ヨリ越高			増
公 儲 金			増
配 付 金			増
中央補助金			増
前年度缺額 公儲金補充			増
米穀賣却益金			増
公債證書賣却益金			増
公債證書利子			増
預ケ金利子			増
地租貸與返納金			増
米穀賣却代			増
公債證書賣却代			増